

判決録/植村俊平

(英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級))

このPDF ファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級)(原装本デジタル・データ)から、判決録の部分を抽出して編集したものである。

著者を植村俊平とした典拠は、講義録第 15 号の目次による。

判決録の初掲載号は第 14 号(非所蔵)と推測する。

2015 年 7 月 中央大学大学史資料課

左レト甲ハ固ヨリ窮民ニシテ到底之ヲ拂フコト能ハサルヲ以テハリ  
スハ原告ノ地位ニ立チプリスコト被告トナシテ訴訟入費取戻ノ訴  
ヲ起シタリ其理由ハ原告ノ訴訟入費ヲ失ヒタルハ全ク被告カ甲ヲ援  
ケテ起訴セシメシニ因ルヲ以テナリ

## 判決

(判決) 判事曰ク救恤卽チ窮民ヲ助ケント欲シテ他人ノ訴訟ヲ扶助シ

タルコトハ充分ノ抗辯トナルナリ尤モ甲ヲ扶助スルニ先チ被告ニ於  
テ能ク其事實ヲ考ヘシナハ或ハ訴訟ヲ起スニ至ラサリシナランニ被  
告ハ詳カニ之ヲ探索セスシテ直ニ起訴ヲ助ケシト雖モ裁判所ハ其不  
注意ヲ問ハス概シテ救恤ノ心ヨリ起リシ訴訟扶助ヲ以テ援訴ト爲ス  
コト能ハス故ニ原告ノ申分相立チ難シト

## 附言

因曰元來援訴ノ問題ハ實際餘リ起ラサルモノナレトモ援訴ヲ以テ  
不法ノ所爲トナス可キハ明白ナリ但援訴ノコトタル其區域ヲ如何

ナル事實マテニ及ス可キヤ實ニ因難ナルモノナリ本件ノ如キハ即チ援訴ノ區域ヲ定ムルノ一端トナルヘシ

[第三] 口讒ノ事件

ブルカー對コフキン

Brooker V. Coffin (3 Johns. 183; 1 Am. L. C. 76)

一千八百〇九年 紐育上等裁判所

(事實) 本訴ニ於テ原告ハ被告ノ爲メニ口讒セラレタリトナス言語ハ次下ノ如シ

(一) 原告ハ普通ノ娼妓ナリ余ハ之ヲ證明スルコトヲ得 (二) 原告ハ他人ノ托ヲ受ケテ其孕メル子供ハ余ノ胤ナルコトヲ誓ヘリ (三) 原告ハ殆ト牢屋ニ入レラレントセリ云々

(訴答) 原告ノ申立 原告ハ本訴ノ理由ヲ述ヘテ曰ク口頭ノ言語ヲ以

テ他人ニ犯罪アルコトヲ申立タルトキニ若シ其事蹟眞實ニシテ被讒者ハ法律上及ヒ道徳上ニ罪ヲ得ルモノナルトキハ被讒者ニ實際ノ損害ナキモ尙ホ之ヲ申立テタル人ニハ口讒トシテ損害賠償ノ責任アリトス是レ私犯法ノ原則ナリ然リ而シテ當時ノ法律ニ由レハ普通ノ娼妓無藉人、乞食、輕業師、占者、人相見等ヲ以テ亂民トシ治安判事ハ之ヲ捕縛シテ懲治監内ニ入ル、コトヲ命セリ左レハ今原告ニ對シ普通娼妓ナリト云ヒシハ正シク右ノ法律ニ據リテ犯罪トナルヘキコトヲ申立タルモノナリ是レ法律上及ヒ道徳上ノ犯罪ヲ言ヒ掛ケタルモノナレハ被告ハ私犯法上ノ責任アルモノナリト云フ

被告ノ答辨、被告曰若シモ一婦女子ニ對シ普通ノ娼妓ト云ヒタルカ爲メニ口讒ノ責任アルモノトスレハ或人ヲ以テ輕業師又ハ占者ト云フモ亦口讒トナルニ至ラン何トナレハ法律上娼妓ヲ亂民トナスト同

判決

様ニ占者モ亦亂民ナリト定メタレハナリ又等シク或人ヲ指シテ人相見又ハ乞食ナリト云フモ然ルヘシ然レトモ斯ノ如キコトヲ以テ直ニ口讒トナサントスルノ論者ハ必ス無カル可シ又曰單ニ原告ノ子供ハ被告ノ胤ニ因ルト誓ヒタリト云ヒタルノミニテハ未タ口讒トナスニ足ラス何トナレハ其事實詳カナラスシテ孰レノ子供ヲ指スヤ又何レノ時ニ其胤ヲ留メシヤヲ明カニセサルヲ以テナリ

**(判決)** 判事曰茲ニ他人ニ對シテ犯罪ヲ言ヒ掛クル者アリ若シ其事ニシテ眞實ナランニハ大陪審官ノ爲メニ起訴セラル可キ犯罪ニシテ其事柄タルヤ道德上ノ耻辱ヲ含ミ又加辱ノ刑罰ニ當ル可キモノナラハ假令實際ノ損害ナクトモ唯其言ヒ掛ケラレタル口上ノミニテ口讒ヲ構成スルニ至ラン必竟其言ヒ掛ケタル犯罪ハ大陪審官ノ起訴スヘキ

附言

口讒ノ件

事實

モノニ非ルナリ  
 又子供ノ胤ハ被告ニ在ルコトヲ誓ヒタリト云ヒシ被告ノ意ハ原告ヲ  
 以テ偽證ノ罪アリトナシタルニ非サル可シト認定ス故ニ被告ハ原告  
 ニ對シテ偽證罪ヲ言ヒ掛ケタルニ非サルナリ  
 以上ノ理由ニ依リ原告ノ申分ハ立タサルナリト  
 此判決例ハ他人ニ犯罪ヲ言ヒ掛ケタルトキニハ實際ノ損害ナキモ  
 口讒トナルト云ヘル規則ヲ適用スヘキ區域ヲ定メタルモノナリ

〔第四〕 口讒ノ件

判例 バアルチ對ニツケルソン Burch v. Neckerson  
 一八八九年十月 米國紐育上等裁判所ニ於テ始審ノ控  
 訴ニ係ル判決 In the supreme courts of N. Y. (17 Johnson 217 Am. l. c. 91)

〔事實〕 本件ノ事實ハ控訴原告バアルチ曾テ控訴被告タル鍛冶營業人

ニツケルソノ職務ニ關シ口讒シテ曰クニツケルソノハ詐欺ノ帳簿ヲ作り居レリ余ハ能ク證明ス可シト此言語ヲ以テ理由トシテ口讒ノ損害要償ヲ起訴セリ

説明 詐欺ノ帳簿トハ例ヘハ花客ニ引渡シタル物品代價ヲ詐リテ記入シタルカ如キモノナリ此類ノ言語ハ鍛冶屋營業ニ取リテハ大ニ信用ニ影響スルモノニテ營業人ニ惡徳ヲ言掛ケタルモノナリ然リ而シテ本件ニ於テ最モ要用ナルハ被告ノ鍛冶屋營業ニ關シテ讒シタル點ナリトス斯ル場合ニ鍛冶屋ハ原告トナリテ口讒ノ損害要償ヲ爲シ得ヘキヤ否ニ在リ

原告ノ申立

(控訴原告人ノ申立) 始審被告即チバアルチ答辯シテ曰ク余ハ損害要償ノ權利ナキモノナリ何トナレハ凡ソ口讒ニハ特別ノ損害ヲ證明セサル可カラサレハナリ故ニ裁判官閣下ハ陪審官ニ命スルニ本件ニ

始審裁判  
所判事ノ  
裁決

於テハ口讒ノ事實ノ外ニ特別ノ損害ヲ證明スルヲ要スルコトヲ以テ  
セラレンコトヲ乞フト  
(始審裁判所判事ノ裁決) 然ルニ始審裁判所判事ハ陪審官ニ説  
明シテ曰ク商人ニ對シテ口讒トナル言語ハ鍛冶屋ニ對シテモ同シク  
口讒ト爲ルモノナリト  
説明 英吉利ニ於テハ商人ニ對スル口讒ハ特別ノ損害ヲ證明セサ  
ルモ損害要償ノ訴權アルハ既ニ一定シアレトモ本件ノ如キ商人ニ  
アラサルモノ即チ鍛冶屋ノ如キ職人ニ對シテモ同一ニ論スヘキヤ  
否ハ未タ確定セサリシヨリ斯ク議論ヲ生シタルモノナリ  
然ルニ陪審官ハ始審被告ニ責任アリト判定シタルヲ以テ判事ハ損害  
要償ヲ爲ス可シト判決セリ茲ニ於テ同被告ハ之ニ服セスシテ本件ヲ  
以テ控訴ニ及ヒタルモノナリ

(控訴裁判所判事ノ裁定)

控訴裁判所判事曰ク工業者ノ職務營

業ニ關シ其公ケノ信用ヲ害スル爲メニ發シタル言語ハ口讒ト爲ルヤ  
否ハ本件ニ於ケル重要ナル問題ナリ楮前ニ掲ケタル言語カ若シ商人  
ニ對シ陳ヘタルモノナリトセハ必ス口讒ノ責アルハ言ヲ待タス何ト  
ナレハ英吉利ニ於テハ特別ノ専門家或ハ營業者ニ對シテ讒謗シタル  
言語ハ若シ通常人ナレハ口讒ニナラサレトモ此等ノ人ニ對シテハ口  
讒トナルコトハ業已ニ一定セルヲ以テ本件ノ原告ハ一ノ工業者タル  
被告ヲ讒シタルモノナレハ口讒ノ責任アルモノナリ且控訴原告ハ本  
件ノ問題タル言語ハ設ヒ實事ナルモ控訴被告ヲシテ罪ニ陷ラシムル  
ニ至ラサルヲ以テ口讒トハナラサルナリト申立ルト雖モ其ハ不當ナ  
リトス何トナレハ商人又ハ工業者ニ對スル口讒ハ一般通則ノ例外ニ  
シテ被讒者ニ虛構ノ犯罪ヲ言ヒ掛クルコトヲ要セス今先例ヲ舉ケテ

判決

之ヲ示サンニ嘗テ機織人ヲ讒シテ彼ハ機織人ヲ指ス得意先ヨリ物品  
 ナ預ルトキハ之ヲ質入スルノ習癖アルカ故ニ信用ス可カラスト云ヒ  
 シカ爲メニ口讒ノ責任アリト判定セラレタルコトアリ又麥芽製造人  
 ニ對シ彼ハ該製造人ヲ指ス往々人ヲ欺罔スルモノナレハ信ス可カラ  
 スト口讒シタルカ爲メニ口讒ノ責任アリト判定セラレタリ此二例ハ  
 孰レモ好シヤ其言語通りノ事實アリトスルモ被讒者ハ何等ノ犯罪ニ  
 陷ルコトモナカル可シト雖モ尙ホ口讒ノ責アリト判決セラレタリ又  
 某訴件ニ於テ判事ノ言ニ石炭燒營業者其他之ニ類スル何如ナル賤業  
 者ニ對シテモ其營業職務ヲ傷クヘキ惡口ヲ發スルトキハ私犯上ノ責  
 任アルモノナリト述ヘタルコトアリ

(判決)

今本件ノ事實ヲ案スルニ凡テ勘定ノ明細帳ヲ作ルハ鍛冶  
 屋ノ營業ニ必要ニシテ一般ニ賣買引渡上ニ信用ノ行ハル、トキハ最

モ缺ク可カラサルナリ故ニ控訴原告ノ發シタル言語ハ口讒ノ責任アリトス左レハ始審ノ原告ハ實際ノ損害ヲ證明セサルモ尙ホ始審ノ被告ハ賠償ノ責アルモノニシテ始審裁判所ノ判決ハ有效ナリトス

因曰 口讒ノ原則ニ依レハ該讒謗ノ爲メニ特別ノ損害例ヘハ商賣ノ得意ヲ失フトカ又ハ借金契約ノ破談トナルカ如シアルニ非サレハ加讒者ニ責任ナキヲ通例トセリ尤モ此例外ニ犯罪ヲ申立ルカ又ハ營業若クハ専門ノ職務ニ關シテ公ケノ信用ヲ害ス可キ口讒ヲナストキハ其言語ノミニテ要償ノ責アリ又本件ノ論點ハ鍛冶屋ノ如キ工業者モ一般ノ商人ト等シク右ノ第二ノ例外ニ入ル可キヤ否ヲ判定スルニ在リシナリ

〔第五〕 代理人任定ノ件

バッチー對カルスウエル

Batty v. Carrswell

一千八百〇六年 紐育上等裁判所ニ於テ始審ノ控訴ニ係

ル判決

## 事實

## 〔事實〕

被告ノ一人タルヂー、カルスウエルハ金ヲ借ラントシテ他ノ一人タルエー、カルスウエルニ乞フテ曰ク余ハ約束手形ヲ作ラント欲ス幸ヒニ余ノ爲メニ之レカ連帶約束人トナルヲ願フトエー、カルスウエルハ之ヲ承諾セリ而シテ此手形ニ副署セル甲ナル證人アリ且甲ハヂーノ書記ナリシ依テエーハ甲ニ命シ其代理人トシテ之ニ代リテ約束手形ニ署名セシム且手形ノ金高ハ二百五十弗ニシテ期限ハ六ヶ月ナルヘキ豫定ナリシ其後未ダ該約束手形ヲ作ラサル際ニヂーハエーニ話シテ曰ク余ハ兼テ借ラントセシ金額ノ不用ニ屬シタルヲ以テ嚮ニ談シタル約束手形ヲ作ルヲ要セスト然ルニ甲ハヂーノ書記タル資格ヲ以テエーニ一言ノ話モナク六ヶ月ノ期限ヲ縮メテ六十日トナシテ

始審裁判  
所宣告

二百五十弗ノ約束手形ヲ作りタリ但シ是時エーハ少シモ之ニ關與セ  
サリシ此ニ於テ始審ノ原告ハ該約束手形ヲ以テ訴求セシニ被告エー  
カルスウエルハ其手形ニ署名セサルノ故ヲ以テ其請求ヲ拒絕セリ要  
スルニ被告ヂーエーハ二人連帶シテ其責任ヲ負フ可キヤ否ノ争点ナ  
リトス

(始審裁判所宣告)

始審裁判所判事ハ陪審官ニ命シテ曰ク陪審官

ニ於テ此約束手形ハヂーカ金子ハ不用トナリタリトエーニ語リタル  
以前ニ作ルモノト認ムルトキハ被告ハ其責ヲ負ハサル可カラス然レ  
トモ若シ其以後ニ出來タルモノト認ムルトキハ則チエーカ甲ヘノ委  
任權ヲ取消シタル後ナルヲ以テ其約束手形ニ對シテエーハ責任ナカ  
ルヘシト

然ルニ陪審官ハ該手形タルヂーノ該話ノ以前ニ出來タルモノト認定

控訴被告  
ノ申立

セシナ以テ原告ノ勝訴トナリタリ  
然ルニ被告ハ該約束手形ニ署名セサルヲ以テ理由トナシテ此ニ再審  
ノ訴ヲ爲シタルモノナリ

(控訴被告ノ申立)

控訴被告答辨シテ曰ク概シテ本人ノ委託セシ一  
般代理權ノ範圍内ニ於テ代理人ノ爲シタル事柄ハ本人其責任アリト  
ス是レ代理法ノ原則ナリ

説明 凡一般ノ代理權内ニ屬スルコトナレハ特ニ某所爲ハ委任權  
外ナリト雖モ本人其責ニ任セサル可ラス例セハ余ハ平日他人ニ  
托シテ物品ヲ買ハシムルニ當リ常ニ余カ物品ヲ買フコトヲ禁セシ  
商人ニ就テ某物品ヲ買ヒ來ルトキハ該代理人ノ行爲ハ特ニ其場合  
ニ於テ委任權ヲ越ユルト雖モ余ハ其責ニ任セサル可ラス何トナ  
レハ此行爲ハ該代理人ノ一般ノ委任權内ナレハナリ

判決

此事件ニ於テ甲ハ最初六ヶ月ノ期限ヲ以テ二百五十弗ノ約束手形ヲ作ル職權アリ其職權内ニ於テ六十日ノ期限ヲ以テ二百五十弗ノ約束手形ヲ作りシコトハ決シテ代理權ナキモノトスルヲ得ス又唯ヂーカエーニ告グルニ借用セント欲セシ金圓ノ不用トナリタルコトヲ以テシタルノ一事ハ未タ甲ノ代理權ヲ取消シタルモノトスルヲ得サルナリ然レハ本人タルヂーエー二人ハ其責ニ任ス可キハ至當ノ理ナリト

**判決** 控訴裁判所判事之ヲ裁決シテ曰ク特別ノ委任權ハ嚴密ニ之ヲ行ハサル可カラス故ニ此時甲ハエーノ爲メニ六ヶ月ノ期限ニテ二百五十弗ノ約束手形ニ署名スルコトヲ委任セラレタルモノナレハ甲ハ嚴密ニ其委任ヲ行ハサル可カラス若シ少シニテモ越權ノ所爲ニ由リテ爲セシコトハ決シテ本人其責任ナキモノトス本件ニ於テヂーノ談話ハ甲ノ委任權ヲ取消スニ至ラストスルモ甲ニ越權ノ所爲アリシヲ

附言

代理人及  
賣買請負  
人職權ノ  
件

事實

以テエーハ其責任ナシト判決セリ

因曰 六ヶ月ノ期限ヲ短縮シ六十日トナシテ約束手形ヲ作りタル  
モノナルヲ以テ其所爲ハ委任權内ニアルモノ、如クナレトモ本人  
ハ最初六ヶ月ト定メテ委任權ヲ與ヘシモノナルカ故ニ畢竟此判決  
アリタルモノナリ

〔第六〕 代理人及賣買請負人職權ノ件

オゾルン對マキシー(Odiorne v. Maxcy, 13 Mass. 178; 1 Am. L. C. 664

一千八百十六年) マサチユーセツト上等裁判所ニ於テ始

審ノ控訴ニ係ル判決

(事實)

此ニ二箇ノ約束手形ト之レニ關係セル甲乙兩人アリ而シテ  
其約束手形ノ受取人ハ木綿製造會社ニシテ被告マキシーハ其會社ノ  
一人ナリ甲ハ二箇ノ約束手形ヲ作り會社ヲ以テ其手形ノ受取人トシ

又該會社ノ代理人即チ賣買請負人タル乙者ハ會社代理人ノ資格ヲ以テ其二枚ノ約束手形ニ裏書シテ之ヲ原告ニ流通セリ

說明 此關係ヲシテ一層明白ナラシメンカ爲メニ左ニ之ヲ記ス

(甲) 仕拂人、會社ノ一般代理人

(乙) 會社ノ一般代理人、裏書人

(會社) 受取人

(原告) 手形所持人

元來此約束手形ノ出來タル所以ハ初メ甲ハ原告ヨリ鐵ヲ買受ケ而シテ其代價トシテ約束手形ノ二枚ヲ渡サントセリ然ルニ原告ハ請フテ其手形ニ裏書人一人ヲ求メタリ此ニ於テ甲ハ先ツ其手形受取人ヲ會社ト爲シ會社代理人ナル乙ヲシテ裏書セシメ以テ之ヲ原告ニ渡セリ然ルニ元來乙ハ始終會社ノ賣買請負人即代理人トシテ常ニ木綿製造

謂言

人解對  
賣買請負  
升野人又

事實

ニ必要ナル綿類又ハ其製造シタル反物ヲ賣買セリ又該約束手形ノ仕  
 拂人ナル甲モ亦會社ノ代理人トシテ社務ニ從事シ居タリ而シテ本件  
 ニ於テ訴訟ノ問題ト爲リシ約束手形ハ木綿ヲ買入レシ代價ヲ拂フ代  
 リニ作リタルモノニアラスシテ鐵ヲ買ヒ取リシ代價ヲ拂フ代リニ作  
 リシカ之ニ對シテ會社ハ責任アリヤ如何ト云フニ在リ

始審判事  
ノ裁定

(始審判事ノ裁定) 始審判事曰ク乙ハ會社ノ代理人ノ資格ヲ以テ其約  
 束手形ニ裏書セシヲ以テ其本人タル會社ハ其責任ヲ負ハサル可カラ  
 スト

控訴原告  
ノ申立

(控訴原告人ノ申立) 始審ノ被告ナル會社ハ再審ノ訴ヲ爲シテ曰ク乙  
 ノ代理權ハ唯木綿製造會社ノ物品ヲ賣買スルノ職權アルノミ然ルニ  
 鐵ヲ買ヒシ代價ノ爲メニ作リシ手形ニ裏書セシハ全ク職權外ノコト  
 ナリ又鐵ヲ買ヒタルコトハ甲者一己ノコトニシテ會社ノ敢テ與リ知

控訴被告  
人ノ答辯

ル所ニアラス是ヲモ猶會社ニ責任アリトスレハ甲者ニシテ船ヲ買ヒ  
或ハ土地ヲ買ヒ又ハ緣故ナキ他人ノ負債ヲ辦償スル爲メニ付テノ手  
形ヲ作ルモ矢張會社ニ其責任アリトセサル可カラス是レ固ヨリ不可  
ナリ甲ハ其會社ニ關係セル事ノミヲ爲スノ代理權アリト雖モ自身一  
己ニ關スル事柄ヲ爲シ以テ其責任ヲ會社ニ負ハシムルヲ得スト

(控訴被告人ノ答辯)

被告答辯シテ曰乙ハ會社一般普通ノ代理人ニシ

テ特定ノ委任權ヲ與ヘラレタル者ニ非ス且甲モ常ニ會社ノ賣買請負  
ヲ爲セシモノナレハ甲乙二人共ニ會社ノ代理人ナリ其代理人タル甲  
ニシテ鐵ヲ買ヒシハ何ニカ會社ニ必要アリテノ事ナル可シト信シテ  
爲シタル取引ナリ此時其手形ハ設ヒ自身一己ノ負債ノ爲メニ作リタ  
ルニモセヨ甲ハ既ニ會社一般ノ代理人ナルヲ以テ其爲シタル事柄ニ  
付テハ飽マテモ本人タル會社ハ其責ニ任セサル可カラスト

(判決) 甲ノ鐵ヲ買入ル、ニ當リテハ會社ノ名義ヲ用キタルニ非ス且  
 甲自身一己ノ用向ノ爲メニシテ會社ノ所用アルニ非サルモノ、如シ  
 然レハ本人ナル會社ハ其約束手形ノ金額ヲ拂フノ責任ナシ尤モ甲乙  
 兩人ハ會社一般普通ノ代理人ニハ相違ナシト雖モ其代理權内ニハ甲  
 自身ニ負ヒシ所ノ借金ニ就キ會社ヲ保證人トナス爲メニ裏書ヲナシ  
 テ手形ヲ流通セシムルノ權ナキモノニシテ全ク此等ハ甲乙二人ノ職  
 權外ノコトナリトス凡普通代理人ノ職權ナルモノハ決シテ無限ノモ  
 ノニアラス必スヤ其司務ニ必要ナルコトノミニ限ルモノトス凡ソ代  
 理人ノ所爲ハ會社ノ當然爲ス可キ營業事務ノコトニ付テハ固ヨリ會  
 社其責ニ任ス可シト雖モ會社營業外ノコトニ關シテハ決シテ責任ナ  
 キモノトス

〔第七〕 代理人委任權ノ範圍ニ係ル件

代理人委  
任權ノ範  
圍ニ係ル

事實

マツクリユール對リチャルドソン (Maclure V. Richardson) Rice  
215; 1 Am. L. C. 667

一千八百三十九年南カロライナ州控訴院判決

(事實)

原告マツクリユールハ一艘ノ河舟ヲ所有シ專ラ自分ノ綿ヲキ  
ヤアレストンノ海港ニ運搬スルノ用ニ供セリ但積荷ノ不足ナルトキ  
ハ傍ラ他人ノ綿ヲモ積載セ通例ノ賃錢ヲ受取タリ又船長甲ナル者ア  
リテ此舟ヲ管督セリ然ルニ通常他人ノ綿ヲ該船ニ托スルヤ船長ニ行  
カスシテ直ニ船主ノ許ニ至リテ商議シ其承諾ノ上ニテ荷積スルヲ例  
トセリサテ本件ノ起ル場合ニ於テヤ被告リチャルドソンハ甲船長ノ  
所ニ至リ綿ノ運送ヲ托セント欲シ因リテ問フテ曰ク必スシモ船主ノ  
許可ヲ得ルニアラスハ荷物ヲ托スル能ハサルヤト(因ニ云フ船長ハ時  
ニ乙丙ノ綿ヲ積込ミ居レリ乙丙ハ蓋船主ノ承諾ヲ得タル者ナリ)船長

始審被告  
ノ抗辯

甲ノ曰ク此際別ニ船主ノ承諾ヲ得ルニ及ハス且船主ハ遠行シテ不在  
中ナレハ自分ニ於テ宜シク之ヲ取計ヒ乙丙ノ荷物ト共ニ積送ルヘシ  
ト於是被告ハ綿十俵ヲ托シテ積込ミタリ然ルニ該船航行スル途中ニ  
テ船員ノ過失ヨリ火ヲ失シ遂ニ被告ノ綿四俵ヲ燒失セリ他二俵モ亦  
損害アリタル爲メ之ヲ他船ニ遷シタリ其後又暴風起リテ半燒ノ二俵  
モ亦沈没シテ海底ノ藻屑ト消エ失タリサレハ安全ニ到着シタルハ唯  
残り四俵ナルノミ故ニ始審裁判所ニ於テ被告ハ原告ニ對シ右六俵ニ  
對スル綿ノ代價ヲ訴ヘ出タルナリ

(始審裁判所ニ於ル被告ノ抗辯)原告ノ主張スル所ニテハ甲船長ハ被  
告ノ代理人ナレハ其所爲ニ付責任アリトスレトモ元來被告船長トノ  
間ハ普通ノ賃錢ヲ受ケ他人ノ荷物ヲ運搬スル船主ト其代理人タル船  
長トノ關係アルニアラス船長甲ハ唯被告ノ命令ニヨリテ船ノ荷物ヲ

積送ルヘキ委任權アルノミニテ被告ニ於テ之ヲ命セサルトキニ他人ノ托ヲ受ケテ積荷ヲナスノ權ナシ故ニ若シ荷物ノ運送ヲ托セント欲スル者ハ宜シク被告ニ就キテ之ヲ商議スヘシ而シテ被告ハ更ニ之ヲ船長ニ命シテ荷物ヲ積込マシムヘシ然ラサルモノハ被告ニ於テ其責任ヲ負フヘキ理由ナシサレハ本件ニ於ル原告ノ申立ハ甚タ不當ナリト抗辯セリ

要之此事件ノ問題ハ被告ノ從來取引シタル仕方則チ慣例ハ如何ナル處ニ及フヘキカ又船長甲ハ代理ノ委任權アリヤ否ヲ決スルニアリ因リテ裁判官ハ證人ヲ召喚シテ吟味シタルニ一人ハ曰ク自分ハ嘗テ被告ノ船ニ依リ綿ヲ積出シタルヲアリ其節ニハ通常ノ賃錢ヲ出シ船主ニ就キテ之ヲ托セリ是蓋シ被告ノ慣例ヲ述ブルモノナリ他ノ一人曰ク自分被告ノ不在中嘗テ船長ニ商議シ積荷セシトアリト船長甲曰ク

自分ハ嘗テ以前ニ被告ノ承諾ナシニ他人ノ綿ヲ運搬セシコトナシ然  
 レトモ本件ノ事實ニ際シテハ假令最初ヨリ被告ノ同意ナキモ原告ノ  
 綿ヲ積込トモ差問ヘナカラント思ヒタルヲ以テ原告ノ委託ヲ受ケタ  
 リト

始審裁判  
 判決

(始審裁判判決)

始審判事陪審官ニ告ケテ曰ク凡内地ノ河流ニ在ル  
 舟ノ船長ハ一般ニ積荷證書ニ調印スルノ習慣ナリ此習慣ヲ以テ一般  
 普通ノ者トセハ船長ハ充分ニ積荷ヲ約スル委任權ヲ帶タル代理人ト  
 見ルヘシ故ニ果シテ此權ヲ與ヘサラントセハ明ニ之ニ命令ヲ與フル  
 カ又ハ世間一般ニ對シテ積荷證書ニ調印スルノ權ナキコトヲ示スカ  
 將タ之ヲ得意先キニ通シタルカ或ハ荷主ト船長トノ間ニ於テ不正ノ  
 事ヲナシ船主ノ不利益ヲ謀リシ等凡テ一般普通ノ推測ヲ破却スヘキ  
 反對ノ證據ヲ舉サル可ラサルナリ果シテ此等反對ノ證據ナキニ於テ

ハ前ニ述タル一般普通ノ推測ハ避ク可ラサルナリ故ニ本件ノ場合ニ  
 於テ甲船長ニハ綿ヲ積込ム委任權アルモノナレハ船主ナル被告ハ原  
 告ノ請求ニ應シ現ニ燒失シタル四俵ノ綿ニ對シテハ損害要償ノ責ヲ  
 負サル可ラス何トナレハ此場合ニ於テ被告ハ普通ノ運業者ニシテ甚  
 タ重キ責任アルモノナレハナリ  
 又他船ニ遷シテ沈没シタル二俵ノ綿ニ付テモ尙被告ハ責任アルモノ  
 トス何トナレハ右二俵ヲ他船ニ移シタルモ必竟最初被告ノ船員ノ不  
 注意ヨリ起リ而シテ之ヲ轉展スル際運搬ノ遷延シタルニヨリ遂ニ暴  
 風ノ害ヲ受ケタルモノニテ果シテ此事ナカリナハ右二俵モ安全ニ到  
 着シタルモノト認メサル可ラス故ニ右二俵ノ沈没シタルモ元來船員  
 ノ過失ヨリ起因シタルモノナレハ其雇主タル被告ハ自己ノ不注意ニ  
 對シテ賠償ノ義務ヲ免ル可カラス

終審

如此キ理由アルヲ以テ本件ノ事實ニ於テ陪審官ハ船主卽被告ト船長トハ代理ノ關係アリト見做シ此事實ヲ敗毀スルニ足ルモノナレハ被告ハ勿論其責任アリト判定セリ

是レ控訴ノ起リシ原因ニシテ被告卽船主ハ右ノ裁判ヲ甚タ不當ナリトシテ終審ノ訴ヲ提起セリ

(終審) 控訴判事曰ク本件ニ於テ最初原告カ被告ニ對シ綿ヲ積送ラシコトヲ商議シタラハ之ヲ許容シタルカ否ヤハ既往ノ事ニシテ論スルニ及ハス唯代理人ナル船長ハ被告ニ謀ラサルモ他人ノ綿ヲ運送スル所ノ委任權アリト自信シテ原告ノ綿ヲ積込タリトハ現存スル處ノ事實ナリ然リ而シテ船長ナルモノハ船舶ヲ預リ之カ管督ヲナスモノナレハ賃錢ヲ受ケ荷物ヲ積卸スルハ自ラ其委任權ノ一部ナリトシテ公衆ニ示スモノナレハ此場合ニ在リテ甲ハ船長トシテ勞働シタルカ故

ニ甲ノ自ラ綿ヲ積込ムヲ以テ權限内ナリト保シタルハ敢テ不當ナリト云可ラス又原告ニ於テモ乙丙同様ノ賃錢ヲ割出シテ委托シタルヲ以テ船長甲ハ乙丙ノ積荷ト同シキ取扱ヲナシ安全ニ運送スヘシトハ充分信シタル處ナリ特ニ在來被告カ他人ノ荷物ヲ運送スルニ誰彼ノ取据ナク汎ク公衆ノ委托ニ應シ普通ノ賃錢ヲ利スルヲ目的トナスモノナレハ被告即船主ノ心底ハ兎モ角モ其行爲ニヨリ世間一般ヨリ觀察スルトキハ被告ノ船ハ則チ普通ノ運送船ニシテ其船長ハ則チ普通運送船ノ船長ト均一ナル地位ニ立ツモノト爲サ、ルヲ得スサレハ積荷證書ニ調印スル事ニ付テモ勿論委任權アル代理人ナリトス然リ而シテ若シ從來被告ノ船ハ自分限りノ荷物ヲ運搬スルノミナリシテ獨リ本件ノ場合ニ限り船長ノ任意ヲ以テ原告ノ荷物ヲ積込ミタル者トセハ或ハ越權ノ所爲アリト云フ可キモ元來既ニ被告ノ船ハ自家ノ荷

物ヲ運送スルノ外兼テ社會一般ノ爲メニ使用シタル以上ハ假令看版  
ヲ掲ケテ營業ヲ爲サ、ルニモセヨ被告自身ノ行爲ニヨリ普通ノ運業  
者タルコトヲ公示シタル者ナリ況ンヤ船長カ荷物ノ運搬ヲ約シ又積荷  
證書ニ調印スルコトニ付明ニ制限ヲ加フルコトナク又運送ノ業ニ付  
其船賃ヲ受取ルヘキ權ナシト命令シタルコト無キニ於テヤ若シモ  
被告ハ自分ノ責任ヲ負フニツキ運送ノ契約ヲナシ荷主ヲ取捨シテ其  
相手ヲ擇フカ如キコトアラハ何故之ヲ世間ニ公布セサルヤ然ルニ之  
レカ公布ヲナサス自カラ普通運業者ノ如キ行爲ヲナシ其責任ヲ負フ  
ニ及ンテ普通運業者ニアラスト爲スハ是レ即社會公衆ヲ欺クモノト  
云フ可シ且一人ノ證言ニ從ヘハ被告ノ船長ハ被告ノ不在中嘗テ他人  
ノ荷物ヲ運搬シタルコトアリトノ事實アリ以上述ヘタル所ニ據リ一  
般法律ノ見解ヲ下シ船主ノ責任ヲ定ムルニ左ノ如シ

第一 船主ハ其代理人カ通例委任權範圍内ニ於テナシタル行爲ニ對シ其責ニ任セサル可ラス

第二 若シ特別ニ船長ハ船主ノ代理人ニアラストノ制限ナキ以上ハ船長ハ通常ノ委任權アリト見做スヘシ

第三 凡ソ代理人ノ權限ハ地位ニヨリ定マル者ナリ故ニ其地位ニ相當スル代理權アリト認ムルヲ得ヘシ

今本件ノ事實ニ於テ船主ハ自カラノ任意ヲ以テ甲ヲ雇ヒ管督者トナシタル以上ハ假令明ニ證書ヲ以テ其權限ヲ定メサルモ甲ノ地位ヨリシテ普通一般ノ委任權アリト推測スヘシ若シ被告カ甲ノ所爲ニヨリ其責任ヲ負フヲ欲セサレハ甲ヲシテ世間一般ヲ欺クカ如キ地位ニ置カサルヲ要ス苟モ甲ヲシテ船長ノ地位ニ在ラシメテ其權限ヲ制限スルコトナキトキハ是則原告ノ過失ナリトス故ニ此場合ニ於テ甲船長

附言

ノ一般ノ委任權限ハ被告ノ船ヲ預リ居ルトノ事實ヨリ生スルモノト  
ス  
右ノ理由ナルニヨリ始審裁判ノ判決ハ正當ニシテ控訴ハ立タサルナ  
リ

因曰 本件ハ代理人ノ通例委任權範圍内ニ於テナシタルコトハ(假  
令特別ノ場合ニ其委任ナキトモ)第三者ニ對シテハ本人其責任アリ  
トノ規則ヲ説明スルニ足ル好的例ナリトス

解除條件  
ニ關スル

〔第八〕 解除條件ニ關スル訴件

訴件

グレー對ガルド子ル (Gray v. Gardner) (17 mass. 188);

2 Langd. Sel. C. Cont. 785)

事實

(事實)

一千八百二十一年 マサチユーセツト 上等裁判所判決  
此訴訟ハ被告ヨリ原告ニ與ヘタル五千弗ノ約束手形ノ仕拂ヲ

請求スルニ在リ其手形ニハ一ノ條件ヲ附シテ曰ク甲港ニ四月一日ヨリ同年九月一日マテノ内ニ入船スル所ノ鯨脂ノ分量カ前年ノ同期限中ニ入津シタル分量ヨリモ多額ナルトキハ此手形ハ無放タルベシ此手形ノ約因ハ原告ヨリ被告ニ賣リタル鯨脂若干量ナリ右ノ手形ヲ作ルト同日ニ又一他ノ手形ヲ作レリ其手形ニハ條件ヲ附セスシテ鯨脂一「ガロン」ニ付六十錢ノ割合ニシテ勘定シテ被告カ買取リシ鯨脂ノ代價トシテ渡セリ而シテ本訴ノ手形ハ其代價殘額ノ勘定ニ當ルモノニシテ一「ガロン」ニ付八十五錢ノ割合ニテ計算ノ上五千圓ノ額ヲ生セルナリ

此訴訟事件ハ始審ノ際ニ於テ九月一日中ニ鯨脂ヲ積込ミタル一船カ甲港ニ着セシヤ否ヲ以テ議論ノ點トナシタリ而シテ之レニ關スル證據カ雙方抵觸セルヲ以テ解除條件ニ關シテ舉證ノ責任ハ何人ニアリ

ヤノ問題ヲ生セリ加之ス九月一日ニ甲港ニ入船シタリト云フ事實ハ如何ナル事柄ニ由リテ認め得ヘキヤ此點ニ付テモ亦爭點ヲ生セリ當時ノ裁判官ハ陪審官ニ告ケテ曰解除條件ニ關スル舉證ノ責任ハ被告ニアリ又鯨脂ヲ積ミシ船ハ唯甲港ノ近邊マテ到着シタル事實ノミニテハ未タ入船シタリト云フコトヲ得ス必スヤ九月一日マテニ甲港ニ於テ碇泊シタルコトヲ要ス此事實明白ナラサルトキハ本訴ノ約束手形ヲ無効ニ屬セシムルニ足ラスト

始審ノ判決

控訴ノ申立

(始審ノ判決) 茲ニ於テ始審裁判所判事ハ陪審官ノ判定ニ從ヒ宣告シテ曰ク事實ニ於テ鯨脂ヲ積ミシ船ハ未タ甲港ニ到着セスト爲ス且被告ニ於テ之レカ十分ナル證據ヲ舉ケサルカ故ニ其約束手形ハ無効ニ屬セスト即チ原告ノ勝利ニ歸シタルモノナリ

(控訴ノ申立) 此言渡ニ對シテ控訴ヲ爲セシカ其不服ノ點ニニアリ

第一 始審裁判所ニ於テ雙方ノ證據抵觸セルヲ以テ何人ニ解除條件ノ舉證ノ責任アリヤト云ヒシニ被告ニアリト定メシハ不當ニシテ當サニ原告ニアルヘキナリ何トナレハ前掲ノ條件タル控訴原告人ノ考ヲ以テ見レハ解除條件ニアラスシテ成立條件ナレハナリ即其條件ノ成立スルマテハ約束手形ノ效力ヲ生セサルモノトス其效力ハ約定セル未必ノ事柄カ起リテ始メテ生スルモノナリ故ニ控訴被告カ約束手形ヲ實行セント欲セハ宜シク先ツ指定セル期限内ニハ去年ヨリモ鯨脂ノ入津量數少カリシコトヲ證明セサル可カラス

第二 本訴ノ契約ニ從テ見レハ鯨脂ヲ積ミシ船ハ甲港ニ碇泊セサレハ入港ナキモノトスルハ不可ナリ尤モ海上保險法ニ依レハ船舶ノ到着トハ現ニ其港ニ碇泊シタルコトヲ要スレトモ本訴ノ如キハ然ルヲ要セス宜シク結約者ノ意思ニ從テ解釋セサル可カラス即チ法律ニ背

判決

カス實行ニ差支ナキ以上ハ雙方ノ意思如何ヲ見ル可キナリ當時ノ意思ヲ推察スルニ契約者ハ決シテ保險法上ノ嚴密ナル規則ヲ適用スルノ意ナカリシコト知ルヘシ何トナレハ海上保險ハ貨物ノ安全ナルコトヲ必要トスレトモ本訴ノ場合ハ之レト全ク異ニシテ若干鯨脂ノ入船セシコトノ事實ヲ報告スルノ肝要アルノミ即入船ノ量サヘ多ケレハ以テ足レリ此一事ノミヲ以テ條件ノ成否ハ決シ得ヘキナリ故ニ始審裁判所判事ノ陪審官ニ教示シタル所ハ不當ナリト

(判決) 控訴裁判所判事之ヲ判決シテ曰ク本訴契約ノ言辭ヲ見レハ既ニ結約セシ當時ニ於テ金ヲ支拂フ可キノ約束成立ス其成立セル所ノ約束ハ或ル定リシ時限内ニ某事件ノ發生スルヲ以テ無効ニ歸スト云フノ意タルハ明瞭ナリ故ニ本訴ノ約束ハ條件附ノ捺印證書ト異ナルコトナシ捺印證書ノ場合ニ於テハ若シ義務者カ捺印證書ヲ無効ニセ

ント欲スレハ其條件ヲ仕遂ケタルコトヲ證明セサル可カラズ本訴ノ  
 場合ニ於テハ控訴原告人即チ義務者ハ五千圓ノ金ヲ拂フコトヲ約シ  
 タリ但シ鯨脂ノ多量ニ入船スルトキハ其約束ヲ無効ニ歸スルコトヲ  
 定メシノミ然レハ此場合ニ於テハ舉訟ノ責任ハ控訴原告人ニアルコ  
 ト明ナリ乃チ鯨脂ノ入船ナキトキハ控訴原告人ハ正ニ五千圓ヲ拂ヒ  
 渡ス可キノ義務ヲ負ヘハナリ

第二點モ亦明カニ控訴被告ノ勝利ナリ其故ハ鯨脂ハ九月一日ノ夜十  
 二時マデニ甲港ニ到着セサレハ其條件ヲ満たシタルモノトスルコト  
 能ハス而シテ鯨脂ヲ積ミタル船が甲港ノ沖合ニ居ル間ハ未タ以テ入  
 船シタリト認ムルコト能ハス必スヤ甲港ニ碇泊スルコトヲ要ス辭ヲ  
 換ヘテ云ヘハ船ノ錨ヲ下スマテハ來リツハアルトハ云フコトヲ得レ  
 トモ此ヲ以テ直チニ來リタリトハ云ヒ難キナリ何トナレハ甲港ノ入

判決録/植村俊平

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

41 ページから 46 ページの講義録(20 号)は非所蔵

駁判決

成立セリト判決セサル可ラス

(駁判決)

然ルニ米國法學者ラングデル氏ハ此ノ判決ヲ評シテ曰ク

此訴件ニ於テ原告ハ果シテ申込ノ箇條ニ當レル事柄ヲ満足シタルニ  
モセヨ原告ハ被告ノ申込ヲ承諾シタルニ非ス又被告ノ約束ニ對シ約  
因テ仕遂ケタルニアラサルナリ故ニ此判決ハ恐ラクハ誤謬ナラント

〔第拾〕貸金制限ノ効果及代理追認ノ訴件

金鑛會社對國立銀行

Gold mining Co. v National Bank (96 us, 640)

千八百七十七年 合衆國上等法院判決

初メ會社ト銀行トノ間ニ於テ平日互ニ取引ヲナシ居タリシカ其取引  
決算ノ結局銀行ノ方ヘ拂フヘキ金三萬ドルノ超過額ヲ生シツマリ會  
社ヨリ銀行ニ對スル負債トナレリ因リテ始審裁判所ニ於テ債主即チ  
銀行ハ會社ヲ相手取り右三萬ドルヲ請求セシカ被告ノ抗辨モアリテ

遂ニ銀行ノ勝訴ニ歸シタリ是レ此訴件ノ起リシ所以ナリ  
又右會社ト銀行ノ間ニ於ケル取引ハ會社自カラ之ヲ爲セシニ非スシ  
テ其代理人ナル乙カ會社ノ名義ヲ以テ爲シタル者ニシテ乙代理人ハ  
自カラ會社ノ爲メニ金錢取引上ノ委任權アリト信シテ兼テ銀行トノ  
取引ヲナシタルモノナリ

此訴件ニ於テハ第一乙ノ所爲ハ會社ノ所爲ト見做スヘキカ換言スレ  
ハ此場合ニ於テ乙ハ委任權ヲ有スルヤ果シテ委任權アリトセハ豫任  
ナリヤ又ハ追認ナリヤト云フニ在リシ但シ此問題ニ入ルノ前ニ於テ  
決ス可キ今一ノ問題ハ銀行カ貸金制限ヲ超過シタル債主權ヲ有シタ  
ルトキニ其權利ノ執行ヲ訴求シ得ルヤ否ナリ

實ニ會社ヨリ銀行ニ對シテ負ヒタル決算額ハ其銀行カ貸金ヲ爲シ得  
ル制限高ヲ超過セリ故ニ控訴ノ一理由トシテ曰ク負債ノ金額法律ハ

制、ハ、超、ヘ、タ、リ、從、テ、之、ヲ、執、行、ス、可、ラ、ス、原、來、該、銀、行、ハ、千、八、百、六、十、四、年、國、會、ヨ、リ、發、布、シ、タ、ル、法、律、ヲ、遵、奉、シ、テ、設、立、ス、ル、者、ニ、シ、テ、其、法、律、第、二、十、九、章、ニ、曰、ク、一、己、人、若、ク、ハ、會、社、カ、其、銀、行、ヨ、リ、金、ヲ、借、ル、ニ、當、リ、銀、行、ニ、對、ス、ル、負、債、ノ、金、額、ハ、何、時、ニ、テ、モ、現、ニ、拂、込、ミ、タ、ル、株、券、高、ノ、十、分、ノ、一、ヲ、超、ユ、可、ラ、ス、ト、今、國、立、銀、行、ノ、資、ハ、五、萬、圓、ヲ、以、テ、成、立、シ、タ、ル、者、ナ、リ、然、ル、ニ、五、萬、圓、ノ、資、本、ヲ、有、ス、ル、該、銀、行、ヨ、リ、三、萬、圓、ノ、金、ヲ、借、リ、タ、リ、故、ニ、銀、行、ニ、支、拂、フ、可、キ、三、萬、圓、ノ、負、債、ハ、法、律、ニ、違、背、シ、タ、ル、者、ナ、リ、云、々、  
茲、ニ、會、社、ハ、自、己、ノ、利、益、ノ、爲、メ、ニ、銀、行、ヨ、リ、三、萬、圓、ノ、金、額、ヲ、請、取、リ、何、ノ、故、障、ヲ、モ、述、ヘ、ス、シ、テ、自、己、ノ、用、ヲ、達、シ、而、シ、テ、其、償、却、ノ、請、求、ヲ、受、ク、ル、ニ、及、ン、テ、銀、行、ハ、元、來、三、萬、圓、ヲ、貸、ス、可、キ、權、ナ、キ、コ、ト、ヲ、申、立、テ、以、テ、自、己、ノ、負、債、ヲ、免、レ、ン、ト、ス、果、シ、テ、控、辨、ノ、理、由、ト、ナ、ス、可、キ、ヤ、否、ヤ、  
裁、判、官、ハ、先、例、ヲ、引、キ、テ、曰、ク、ハ、リ、ス、對、ラ、ン、子、ル、ス、ノ、訴、件、ニ、於、テ、約、束、手、

形ニ基キ訴ヘラレタル被告ハ其約因ノ不適法ナルコトヲ抗辯セシカ  
當時裁判官ハ辯シテ曰ク此ノ如キ場合ニハ條例ノ全部ヲ吟味セサル  
可ラス卽チ果シテ此條件ヲ設ケタル立法部ノ精神ハ苟モ條例中ニ禁  
止シタル所爲ニ關係シタル契約ハ裁判官ヲシテ執行ス可ラスト云フ  
ノ目的ヲ以テ之ヲ制定セルヤ否ヤヲ探知スヘシト(此判決例ニヨリテ  
裁判官ハ本件ノ場合ニ於テモ資本金ノ十分ノ一ヲ超過ス可ラスト云  
フ法律ノ精神ヲ吟味セサル可ラサルヲ示セルナリ)且曰ク只法律ハ或  
所爲ヲ禁シ或ハ之ヲ行フモノニ刑罰ヲ加ヘタルカ爲メニ必スシモ其  
法律ニ背キタル性質ヲ有スル契約ヲ無効トナスニ非スシテ或場合ニ  
ハ之ヲ有効トナスコトアリト又チハヤ對第二國立銀行ノ訴件ニ於テ  
本件ニ引用セル條例ニ付議論起レリ其時一方ノ抗辯ニ曰ク銀行ハ法  
律上特ニ定ムル割合ヲ超ユル貸金ヲ請求スルコト能ハスト然ルニ其

判官説ヲ述テ曰ク此貸金ノ制限ヲ定ムル法律ノ明文ハ銀行ノ取締リ  
ノ爲メニ作りタル者ナリ故ニ其割合ヲ超ヘタル貸金モ無効トスヘガ  
ラスト由是觀之我々ハ公共ノ政畧ニ從フモ國會ノ精神ヲ探ルモ銀行  
ノ貸金ニシテ特ニ定メタル割合ヲ超過スルモ其金ヲ借りタル者カ現  
ニ之ヲ自分ニ請取りテ消費シタルトキハ之ヲ辨償スヘキ義務ヲ免ル  
ハコト能ハス若シ之ヲシテ免レシムルトキハ銀行ノ債主株主及ビ其  
他一般ニ銀行ノ安寧繁昌ニ就キテ利益ヲ有スル者ノ迷惑ヲ生ス可シ  
以上ノ理由ナルカ故ニ貸金制限ヲ超過シタリト云ヘル會社ノ抗辨ハ  
相立スト判決セラレタリ

次ノ問題ハ乙ニ委任權アリヤ否ヤニシテ會社ノ社長丙ノ陳述并ニ始  
審裁判所判事ノ裁決ハ左ノ如クニシテ即チ會社ノ社長丙ノ承認陳述  
ニ基キタル委任權ノ効力如何ヲ論スルモノナリ

元來該會社ハニユーヨルクニ設置シ金鑛ハコロラドト云フ遠地ニ在  
リ乙代理人ハコロラドノ金鑛ヲ預リ其一部ヲ他人ニ貸與シ殘レル一  
部ヲ以テ探鑛ニ從事シ社長丙ハニユーヨルクニ在リテ會社ノ事務ヲ  
總理セリ故ニコロラドニ於テハ乙全ク探鑛ノ事業ヲ司レリ

始審裁判所ノ判事ハ陪審官ニ示シテ曰ク千八百六十八年十二月十六  
日以前ハ乙代理人ハ會社ノ名義ヲ以テ金ヲ借り入ル、權ナキカモ知  
ル可ラス然レトモ委任權ハ本人タル會社ニ於テ追認スルヲ得レハ最  
初ニ豫認セサル負債ヲモ引受ルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ且曰ク乙代  
理人カ會社ノ名義ヲ以テ金ヲ借り其金ハ探鑛ノ事業ニ消費シ而シテ  
其辨償ヲ會社ニ請求シタランニハ會社ハ其代理人タル乙カ現ニ己レ  
ノ名義ヲ以テ金ヲ借りタルコトヲ知り其辨償ヲ爲サンコトヲ同意シ  
タルヤ又乙ノ所爲ハ會社之ヲ認メテ正當トナセシヤヲ考ヘサル可ラ

ス且乙ハ代理權外ニ於テ爲シタル所爲ニ付キ本人ナル會社ハ之ヲ知  
リタル上ニテ適當ナル時日内ニ之ヲ取消スコトヲ爲サスシテ本人之  
ヲ默視シタルトキハ豫メ委任權ナクシテ爲シタルコトニ同意シタル  
者ナリト見做ス可シ云々而シテ陪審官ハ代理人乙ノ所爲ハ委任權内  
ニ入ル者ト判シタルヲ以テ遂ニ銀行ノ勝訴トナリタリ  
控訴審廷ニ於テ證人ヲ吟味シタルニ千八百六十八年二月十六日ヲ以  
テ社長丙ハコロラドニ在ル代理人乙ト取引ノ總勘定ヲナシ代理人乙  
ニ對シ會社ノ負ヒタル金ヲ拂ヒ渡セリ其節ハ乙ノ帳簿ト會社ノ帳簿  
ト引合セテ計算シタリ又其決算ヲナスニハ銀行ノ出納方モ入りテ雙  
方ノ勘定ヲ助ケタリ故ニ代理人乙カ會社ノ爲メニ起シタル銀行ヨリ  
ノ借金アルコトハ社長丙ハ充分之ヲ知レリトノ事實ヲ證明シ得タリ  
此事實ハ明カニ乙ナル代理人カ會社ノ名義ヲ以テ銀行ト取引シタリ

トノ事ヲ社長ヲシテ了知セシムルニ足レリ殊更ニ社長タルモノハ會社ノ爲メニ此類ノ報知ヲ受取ルヘキ適當ノ人ナレハ社長ノ承知セルハ會社ノ承知セルニ同シ又銀行ノ役員丁戌モ亦乙カ金鑛會社ノ名義ニテ銀行ト取引ヲナシタル事ニ付社長丙ト談話ヲナシタルコトアリシトノ證據アリ

右ノ事實アルニ由リ控訴ノ判事說ヲ述ヘテ曰ク初メ乙ハ銀行ヨリ金ヲ借り入ル、委任權ナキニモセヨ現ニ金鑛ノ事業ノ爲メニ銀行ヨリ金ヲ借り且社長ハ明ニ之ヲ知リナカラ相當ノ時間内ニ之ヲ取消サ、リシ故ニ暗黙ニ委任權ヲ追認シタル者ナリ

故ニ始審裁判官ノ陪審官ニ教示シタルコト并ニ其教示ニ基キテ陪審官ノ判定シテ銀行ノ勝訴トナシタルハ正當ノ裁判ニシテ控訴ノ理由ハ相立スト判決セリ

占有權取

戻ノ件

〔第拾壹〕 占有權取戻ノ件

アーモリー對テラミリ Amory v. Delamirie. (1 Smiss L. C. 256.)

事實

〔事實〕 原告ハ煙筒ノ掃除ヲ業トナス者ナリ或時一煙筒ノ掃除ヲナス際ニ偶然寶玉ヲ發見シタリ然レトモ己レ未タ其何物タルヲ知ラサルヲ以テ被告ナル金匠ノ許ニ持參シ其鑑定ヲ托セントシ之ヲ被告ノ丁稚ニ渡シタリ而シテ丁稚ハ之ヲ請取リ其重量ヲ測ルコトヲ口實トナシテ右ノ寶玉ヲ其臺ヨリ分チテ奪取セリ因リテ其後原告ハ被告ニ對シテ其寶玉ノ返却ヲ要求シタルニ被告曰ク余ハ其寶玉ノ代價金三十五錢ヲ汝ニ與ヘン故ニ其レニテ承諾セヨト然レトモ原告ハ之ヲ肯セス必ス其物品ヲ返サンコトヲ求メタリ不得止シテ丁稚ハ其寶玉ヲ取リ出シタル後臺ノミヲ返シタリ於是原告ハ被告ニ對シテ寶玉ノ占有權取戻ノ訴ヲ起セリ此訴訟ニ於テ法律ノ三問題起リテ之ヲ判決シタ

第一 寶玉ノ拾ヒ人タル原告ハ自分ニ完全ナル所有權ヲ得ザルモ然  
 レトモ尙ホ眞正ノ所有主ニ非サル以上ハ何人ニ對シテモ該品ヲ占有  
 スルノ權利アリトス故ニ原告ハ占有權取戻ノ訴ヲ提起スルコトヲ得  
 ヘシ  
 第二 此訴訟ハ該物品ヲ受取リタル丁稚ノ主人タル被告ニ對シ訴ヲ  
 起スコトヲ得何トナレハ主人被告ハ丁稚ニ信用ヲ置キテ事ヲ取扱セ  
 タルヲ以テ其丁稚ノ所爲ニ付テハ責任アレハナリ  
 第三 其寶玉ノ價ニ付同業ノ金匠數人ヲ鑑定トシテ召喚シ其金銀ニ  
 適スル最上等ノ寶玉ノ價幾何ナリヤヲ鑑定セシメタリ其節裁判官ハ  
 陪審官ニ教示シテ曰ク被告ニ於テ其寶玉ヲ裁判所ニ提出スルカ又ハ  
 其寶玉カ最上等ノ者ニ非サリシコトヲ證明スルコト能ハサレハ陪審

官ハ被告ニ取リテ最モ不利益ナル様判定シテ其實玉ハ最上等ノ品位ナリシト推定シテ賠償セシムルコトヲ得ヘシト此訴件ハ所有權ナキモ占有權アルトキハ他ヨリ之ヲ奪ヒタルトキハ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルト云フニ在リ此訴件ニ從ヒテ爾來判決シタル訴件甚々多シ其中ヨリ數件ヲ左ニ抄出スヘシ

(判決)

サツトシテ對バツクノ訴件ニ於テ原告ハ或約束書ニヨリ他人ヨリ物品ヲ借リタリ然ルニ被告ハ其物ヲ奪ヒ取タルニ因リ原告ハ占有權取戻ノ訴ヲ起セリ此判決ニ於テ原告ハ約束書ヲ裁判所ニ提出セサルモ該物品ヲ取戻スコトヲ得ヘシトナセリ何トナレハ原告ハ該物品上如何ナル利益ヲ有スルカヲ證明スル爲ニハ其約束書面ヲ見ルヲ必用トスレトモ占有權ヲ取戻スニハ只自分ニ占有權アリシコトヲ證明シタルノミニテ足レリトス

又土地侵害犯ノ訴訟ニ對スル被告ノ抗辨ニ曰ク爭論ノ目的タル土地ハ甲ノ所有地ナリ而シテ余ハ甲ノ命令ニ依リテ原告ノ占有スル土地ヲ侵害セリ故ニ侵害ノ罪ナシト然ルニ原告ハ再答辨シテ被告カ所謂命令ナルモノハ抗辨トナラサル旨ヲ以テセリ裁判官曰ク若シ被告ニ甲ノ命令ナケレハ則チ侵害人ナリ故ニ假令原告ハ充分所有權ナシト假定スルモ侵害人ニ對シテハ原告ノ占有權ハ其効ヲ有スル者ナレハ侵害者ニ對シ占有權取戻ノ訴ヲ起スコトヲ得ヘシ茲ニ命令ノ有無ハ問題トナラサルナリト決シタリ

本訴ノ法理ニ基キタル原則アリ曰ク原告ハ自分ノ權利強キニ基キテ恢復スルコトヲ得レトモ被告ノ權利ノ弱キニ依リテ恢復スルコトヲ得スト其例ハ其訴件ニ於テ被告カ蒸氣船ヲ差押ヘタルヲ以テ原告ハ該船ニ付占有權取戻ヲ訴ヘタリ被告ノ抗辨ニ曰ク該船ハ葡萄牙女王

ノ職務ヲ奉スルヲ禁セラレタル者ナリ故ニ法律ニ背キタル所爲ヲナシテ蒸氣船ヲ得タル者ナレハ被告ノ之ヲ占有スルハ不法ナリト是則チ原告ノ再答辨ハ自分ノ權利ノ強キヲ云フニアラスシテ唯被告ノ權利ノ弱キヲ證スルノミナリ故ニ裁判官ハ被告ノ勝訴ニ歸セシメタリ本訴判決第三ノ項ニ基キタル原則アリ曰ク若シ人自乙ノ私犯上ノ所爲ニ依リ證據ヲ引去リタルニ當リ其證據ニシテ果シテ其者ノ權利義務ノ性質ヲ明了ナラシム可キ者ナルトキハ過失者ニ不利益ナル推測ヲ下ス可シト例ヘハ契約ヲ爲ス者アリテ其契約ノ爲メニ義務ヲ負フヘキ者即義務者契約書類ヲ引去リテ出サ、ルトキハ其契約ハ正當ニ證券印紙アリタルモノト推測ス又代價ヲ定メスシテ他人ニ物品ヲ賣却スル時ニ賣主カ其價ヲ算定スルニ要用ナル證據ヲ出サ、ルトキハ同類ノ物品中ニテ最モ低價ナル品位ナリシト推測ス之ニ反シテ買主

カ品物ノ價ヲ鑑定スル手段トナル證據ヲ湮滅シタルトキハ最モ高價  
 ノ品位ナリシト推定スルナリ  
 [第拾貳] 連帶約束人ノ承認ニ關スル件

ホビットコム對ウサットン

Whitcomb, V. Whiting.  
 (1 Sm. L. C. 482)

連帶約束  
 人ノ承認  
 ニ關スル  
 件

本訴件ノ問題トスル處ハ約束手形ノ約束者四人アリテ其一ハカ約束  
 ナ承認シタルトキハ其効果ハ他ノ約束人ニ及フ可キヤ否ト云フニ在  
 リ  
 此場合ニ於テ原告ハ一ノ連帶及各別ノ約束手形ヲ提供セリ其手形ヲ  
 作リシモノハ被告外三人ナリ而シテ此手形ノ出訴期限ハ六年ニシテ  
 出訴セル時ハ該手形ノ仕拂日ヨリ計フレハ既ニ六年ヲ經過シタリシ  
 然レトモ嘗テ被告外ノ約束人三人中ノ一人カ該手形ニ對スル利子及  
 ヒ元金ノ一部分ヲ拂ヒシコトアルニ由リ其所爲ハ則チ新ニ約束ヲ承

認シタル者ニシテ其時ヨリ更ニ起算スルトキハ未タ六年ニ及ハサル  
 コトヲ證明シ以テ該手形ノ約束人ノ一人ナル被告ニ對シテ訴訟ヲ起  
 シタリ  
 然ルニ裁判官ハ約束人ノ一人ガ出訴期限内ニ利子又ハ元金ノ一部分  
 ナ拂ヒタル爲メニ約束手形ノ出訴期限ノ經過ヲ中斷スルモノナリト  
 認メ該手形ハ尙ホ効力アルモノトナシ陪審官モ亦裁判官ノ意見ニ從  
 ヒ終ニ原告ノ勝訴トナシタリ  
 其後被告ヨリ再審ノ訴ヲ起シ其理由ヲ述テ曰原告ハ被告一人ヲ相手  
 取リタルニ因リ本訴ニ於テハ此約束手形ニハ恰モ被告一人ノミ署名  
 シタルモノ、如クニ見做セリ故ニ若シ此訴件ニ於テ約束手形ヲ作リ  
 シ四人ヲ連帶ニテ訴ヘタラハ或ハ結果ノ異ナルコトアルモ知ル可ラ  
 ザレモ本件ノ場合ニ於テハ被告一人ヲ相手取リタル者ナレハ他ノ約

東人ノ所爲ハ被告ニ反對シテハ毫モ効力ヲ生セスサレハ被告外ノ約  
 束人ノ承認ハ被告ニ對シテ證據トナス可ラス嘗テヘンミンクス對ロ  
 ビンソソノ訴件ニ於テ約束手形ノ裏書讓受人カ約束人ニ對シテ起訴  
 シタル場合ニ於テ原告ハ中間ノ裏書人ノ承認ヲ證明シテ曰ク約束手  
 形ノ裏書ハ裏書人ノ手書ナリト然レトモ裁判官ノ說ニ依レハ此ヲ以  
 テ裏書人ノ承認トナシ約束人ニ反對スル證據トナスノ効力ヲ有セス  
 若シ如此種類ノ證據ヲ許ストキハ詐僞共謀ヲ行ハシムルナラント此  
 ノ如キ先例アルヲ以テ本訴ノ場合ニ於テモ約束人ノ一人ガ利子及ヒ  
 元金ノ一部ヲ拂ヒタリトモ出訴期限ノ經過ヲ中斷スルノ効力アル可  
 ラズ云々

控訴裁判官曰ク此問題ハ唯出訴期限ノ中斷シタルヤ否ヲ決スルニア  
 リ若シ果シテ詐僞ノ事實アラシムルニハ別ニ之ヲ證明セザル可ラズ而シ

テ本件ニ於テ約束人ノ一人ガ利子及ヒ元金ノ一部分ヲ拂ヒタルハ連  
帶義務者全体ノ爲ニ拂ヒタル者ニシテ其一人ハ他ノ連帶義務者ノ代  
理人ノ性質アリ故ニ一人ノ承認ハ他ノ連帶者ノ承認トナルヲ以テ  
若シ其一人ガ負債ノ存在スルコトヲ承認シタルトキハ則チ法律ハ  
他ノ連帶者モ亦其負債ヲ拂フベキヲ約束シタルモノト推測スヘシ  
ト  
他ノ判事曰ク被告ハ一部分ノ仕拂ノ爲メ利益ヲ得タルナリ然ラハ則  
チ此仕拂ノ爲メニ生スル責任モ亦負ハサル可ラスト  
故ニ始審ノ裁判ハ正當ニシテ再審ヲ許ス可ラスト申渡シタリ  
本訴訟事件ノ判決ニ基キタル判決例數件ヲ左ニ擧グベシ  
シヤクソン對フヤバンシ (2H. B. 340) 此訴件ニ於テ提出セル約束  
手形ノ連帶義務者ノ一人ガ身代限ノ處分ヲ受ケタルニ當リ其手形ノ

受取人即權利者カ身代限監財委員ニ對シテ手形ヲ證明シ之ニ相當  
 スル配當金ヲ受取リタリ其後六年ヲ經過スル迄ハ(手形ノ仕拂目ヨ  
 リ數フレハ六年ヲ超ユルトモ)他ノ連帶義務者二人ニ對シテハ起訴  
 ノ權アリ何トナレハ身代限ノ配當金ヲ與フルハ承認ニ等シケレバ  
 ナリ

グラントラム對ワルトン (I.B. & A. 463) 此訴件ニ於テ爲換手形ヲ二人  
 連帶ノ名義ヲ以テ振出シタリ而シテ其一人カ身代限トナリタルハ該  
 手形ノ所持人ハ其受取ルベキ物品代價抵當トシテ該手形ヲ所持スル  
 コトヲ證明シ依テ物品代價ニ對スル配當金ヲ受取タリ茲ニ配當金ヲ  
 受取リシハ全ク物品代價トシテ請取リタルモノナレハ該手形ニ關係  
 アルニアラス故ニ配當金ヲ受取リタルコトハ他ノ振出人ニ對シテ出  
 訴期限ノ經過ヲ中斷セスト判決セリ

ドリーング對ホルド (11 M. & W. 329) ノ訴件ニ於テ土地ヲ抵當トシテ金  
圓ヲ借入レ別ニ保證トシテ保證人カ約束手形ヲ作りシ場合ニ於テ其  
後抵當入主カ利子ヲ仕拂ヒシ事實ハ保證人ノ作りシ約束手形ノ出訴  
期限經過ヲ中斷スルノ効アリヤ否ノ疑問起リシカ中斷ノ効アルモノ  
ト決セリ何トナレハ前訴件ニ於テハ品物代價ト約束手形トハ全ク異  
別ノ物ニシテ毫モ相連係スル事ナクシテ互ニ分離シ得ヘキモノナル  
モ本訴件ニ於テハ主從ノ關係相密着シテ分離シ得ヘキモノニアラサ  
レハ主タル借金ノ利子ヲ仕拂ヒシノ一事ハ以テ直ニ從タル契約ニ影  
響シ其出訴期限經過ヲ中斷スルニ足レハナリ(以上二訴件ハ其實上  
ニ區別アリト論スレトモ其實ハ互ニ抵觸シタルモノ、如シ)又アトキ  
ンス對トレットゴールド (2 B. & O. 23) ノ訴件ニ於テ連帶及各別約束手  
形ノ振出人ノ一人カ死去ノ後他ノ拂出人カ利子ヲ仕拂ヒシ事實ハ其

ノ死去セシモノ、遺産管理人ニ對シ出訴期限ヲ中斷セスト判決シタ  
 リ何トナレハ連帶義務者中ノ一人ノ死亡ニヨツテ連帶義務ハ消滅シ  
 テ各別ノ義務ヲ存スルノミナレハナリ又スレーター對ローソン (1 B.  
 & Adol. 367) ノ訴件ニ於テ連帶義務者ノ一人ノ遺産管理人カ債主ヘ仕拂  
 ナ爲セシノ一事ハ他ノ義務者ニ對シ出訴期限中斷ノ効ナシト判決セ  
 リ又パーレー對ストットノ訴件ニ於テ連帶義務者ノ生存中ニ他義務  
 者ノ一人カ負債ノ一部ヲ仕拂ヒシ事柄ハ其後死去シタル義務者ノ遺  
 産管理人ニ對シ出訴期限中斷ノ効アリト判決シタリ  
 リックバーロー對メイソン *Lickbarron v. Mason* (1 Sm. L. C. 595)  
 甲會社アツテ千七百八十六年七月二十二日ニ荷物ヲ船積シテ乙ニ宛  
 テ之ヲ送レリ丙船長ハ該荷物ニ對シ四枚ノ荷積證書ヲ發シ内二枚ハ  
 無記名裏書ニシテ即日乙ニ送り一枚ハ甲之ヲ所持シ一枚ハ丙自ラ之

ナ所持セリ而テ甲ハ未タ乙ヨリ荷物ノ代價ヲ受領セサルヲ以テ同月二十五日ニ乙ニ對シ四百七十七磅ノ爲替手形ヲ振出セリ乙モ亦同日ニ荷積證書ヲ原告へ讓渡シ之ニ對シテ五百二十磅ノ爲替手形ヲ振出セリ而シテ其後原告ハ該手形ヲ引受ケテ其金額ヲ仕拂タリ然ルニ甲ヨリ乙ニ對シテ發行セル爲替手形ノ仕拂期限前ナル同年八月十五日ヲ以テ乙ハ破産シタルハ該手形ノ仕拂ヲ拒絕セルニヨリ甲ハ振出人ノ責任トシテ其手形ノ金額ヲ仕拂ヒタリ故ヲ以テ八月二十一日ニ至リ甲ハ自己ノ手中ニ留在セル荷積證書ニ裏書シテ之ヲ被告ニ送りシニ其證書カ被告ノ手ニ着シタル日ニ荷物モ亦送達地ニ到着セルヲ以テ被告ハ甲ノ爲メニ其荷積證書ヲ船長丙ニ示シテ該荷物ヲ受取り之ヲ賣却シテ五百七十八磅ヲ得タリ由テ原告ハ被告ニ對シ賃錢及ヒ其他ノ費用ヲ辨シテ該荷物ヲ受取ラノコトヲ請求シタルトモ被告之ニ

應セス故ニ本訴ヲ起セリ判事曰ク一般原則トシテ善意ノ對手カ第三位ノ人ニ損害ヲ蒙ムラシムル場合ニハ其損害ノ基因ヲ與ヘタル者カ因テ以テ生シタル損害ノ結果ヲ負ハサルヘカラス若シ被告ノ論辯セル如クニシテ荷物仕出人ハ荷物受取人ノ破産ノ場合ニ於テ荷物引渡ヲ中止スル能ハスシテ唯タ其破産管財人ニ對シテ配當金ヲ得ルノミナラハ荷出人ノ損害ハ非常ナルハ則チ然リ然レトモ奈何セン其非常ノ損害ナルモノハ被告自身カ醸生セシメシモノナルチ何トナレハ被告ハ買受人チ信用シテ賣リタルモノナレハナリ抑モ賣買ノ意思雙方相ヒ投合シテ引渡ヲ爲セハ其物品ノ所有權ハ直ニ買人ニ移リ買人カ即時ニ破産スルモ賣人ハ其物品ヲ取戻スチ得サルチ本則トス然リト雖モ賣買主雙方カ彼此相隔絶セル地ニ在テハ其物件カ買人ノ掌裡ニ歸セサル間ハ其取引ノ手續未ダ完結セサルチ以テ若シモ中途ニシテ

買人ノ破産ヲ聞知スルアラハ其引渡ヲ中止スルヲ得ル特權ヲ賣主ニ與フルナリ去レト是ハ賣買主ノ間柄ニ在テノミ言フヘクシテ若シ第三者ニ荷積證書ヲ讓與シタル時ハ此特權ハ其力ヲ失フモノトス何トナレハ荷積證書ハ爲替手形ト同様ニシテ流通ノ性質ヲ帶ヒタルモノニシテ其讓受人ハ其裏書ヲ信用シテ之ニ信認ヲ置キタルモノナレハナリ若シモ荷出人ニ於テ其流通ヲ禁セント欲セハ何故ニ荷受人ハ買人ニ限ルトノ記入ヲ爲サ、ルヤ若シ之ヲ爲サスシテ一旦流通ヲ爲シタル後ニ及テ其流通ヲ禁セントスルハ不當ト謂ハサルヲ得ス而シテ本訴ニ於テハ無記名裏書ナレト是レハ恰モ直ニ荷受人ニ宛テ、裏書シタルト同様ナリ何トナレハ其證書ニ何人ニテモ一タヒ裏書讓受人トシテ其姓名ヲ記入スレハ直ニ記名裏書トナスヲ得レハナリ故ニ最初ハ無記名ナリシトノ一事ハ毫モ障害ヲ與ヘサルナリ果シテ然ラハ

ライト對カンベルノ訴件ニ於テロールドマンズフィールド氏ノ定メタル原則ヲ玆ニ應用シ得ヘシ氏曰ク海外ニ在ル賣買請負人カ善意ヲ以テ荷物ヲ賣却スル時ハ買受人ハ未タ現實ノ占有ヲ得スト雖トモ賣渡證書ノ効力ニヨツテ完全ナル權利ヲ得ヘシ故ニ其後ニ至リ賣渡人ハ買受人ト其荷物ノ所有權ヲ爭フヲ得サルナリト右ノ理由ニヨリ本訴ニ於テハ原告ノ勝訴ニ歸セリ

此ノ訴件ヲ以テ定メタル原則ハ荷物買受人カ善意ノ第三者ニ荷積證書ヲ移轉セシ場合ニ於テハ賣渡人ハ買受人ノ破産ヲ聞知スルモ其荷物ニ對スル中途差留權ヲ有セス而シテ其荷積證書ノ裏書ハ記名ニテモ無記名ニテモ其間ニ差違アルコトナシ

〔第拾三〕 パタルソン對ガンダセキ

Paterson v. Gandasequi

パタルソン對ガンダセキ

(事實) 被告ガソダセキハイスポニアノ商人ニシテ其本國マドリットニ在ル某外國貿易會社ノ支配人ナリ一千八百十年ノ一月被告ハ英國倫敦ニ於テ甲會社ニ依頼シテ自分ノ爲ニ貨物買入ノ事ヲ附托セリ於是甲會社ハ原告ノ許ニ至リ申込ナシ絹製ノ靴下ヲ買ハント欲シ其見本ヲ求メタリ然ルニ原告ハ之ヲ承諾シテ甲會社ニ到リ其物品ノ見本及物價表ヲ示シ并ニ約束ノ條件其外ノ事ヲ商議セリ而シテ該時甲ノ店ニハ被告モ亦居リテ原告ノ持來リタル物品ヲ擇ミ其代價ヲ親シク檢ヘ採シテ萬事ノ取極ヲナシタリ儲一月六日ニ至リテ原告ノ許ニ甲會社ヨリ絹ノ靴下千五百足ヲ買ハンコトヲ書面ニテ注文シ來レリ其後暫クシテ又同シ物品ヲ千五百足買ハン爲メニ同會社ノ記名シタル注文狀ヲ送レリ但兩度トモ甲會社ノ記名アレトモ其實ハ被告ノ爲ニ買

始審ノ裁  
決

ヒタル者ニシテ甲會社ハ被告ノ發シタル命令ニ從ヒ注文ヲナシタルナリ而シテ原告ハ其注文狀ニ從ヒ現物品ノ引渡ヲナシ信用賣ナレハ其帳簿ニハ甲會社ノ負債トナシテ記入シ品物明細表モ亦甲會社ノ名宛ニテ差送レリ又甲會社ニ於テハ固ヨリ自己ノ爲ニ買入レタルニアラサレハ其物品ノ代價ハ被告ノ借リ分トシテ帳簿ニ記入セリ然ルニ此取引アリテ後未タ物品ノ代價拂ヒ入レノ期ニ至ラサルニ先テ甲會社ハ破産セリサレハ原告ハ信用ヲ置キタル甲會社ニ對シ物品ノ代價ヲ請求スルモ甲會社ハ之ヲ仕拂フヲ得サルヲ以テ遂ニ甲會社ノ本人ナル被告ニ對シテ右物品代價請求ノ訴ヲ起セルナリ

ロールド、エレンボーローガ巡迴裁判廳ニ於テ此事實ヲ取調ヘ始審ノ判決ヲ下シテ曰ク原告ハ甲會社ト取引シタル時ハ甲會社ニ信用ヲ置キタル者ナリ且ツ其當時原告ハ甲會社ノ名義ナレトモ其實ハ會社自ラ

ノ爲ニアラスシテ他ヨリ托サレタル者ナルコトヲ知レルナリ然ルチ故ラニ甲會社ヲ信用シテ賣込ミタル者ナレハ被告ニ對シテ訴求スルノ理ナシ故ニ原告ノ申分立スト

(控訴ノ申立) 是ヨリシテ再審ノ訴起レリ其理由トスル所ハ組合ニ於テ表在組合員(組合員タルコトノ世間ニ現ハレタル者)ト匿在組合員(組合員タルコトノ世間ニ表ハレサル者)トノ二種アリテ組合ニ從ヘハ組合ニ對シ物品ヲ賣渡ス者ハ表在組合員ヲ信シテ賣込ミタルトキニモ其後匿在組合員アレハ尙ホ其人ニ對シテ出訴スルヲ得ル者トス本訴場合ニ於ケルモ之ト等シクシテ設令始メハ甲會社ヲ信用シテ取引シタルニモセヨ後日ニ至リ匿在シタル被告アルコトヲ發見シタルトキハ之ニ對シテ訴ヲ起スハ固ヨリ當然ノ事ナリト云フニ在リ

然ルニ被告代言人ハ再審ノ請求ニ反對シテ曰ク被告ハ外國人ニシテ

英國ノ市場ニ於テ自分ノ信用ヲ使用スルヲ好マサル故ニ甲會社ニ托シ該會社ノ名義ヲ以テ物品ヲ買ハシメタルナリサレハ被告ハ甲會社ニ對シテ責任アルノミナリ又原告ハ甲會社ト取引シテ該會社ニ信用ヲ置キタルモノニシテ其當時甲會社ハ被告ノ爲ニ物品ヲ買ヒタルコトハ充分知リテ然ル後ニ爲シタルモノナレハ被告ハ敢テ原告ニ對シ責任ヲ負フノ理由ナシ若シ被告モ尙ホ原告ニ對シテ責任アリトセハ被告ハ二重ニ責任ヲ負フモノナリ何トナレハ被告ハ甲會社ニ對シテ責任ヲ負ヒタル上ニ今又原告ニ對シテ責任アリトスレハナリ

爰ニ裁判官ロードエレンボーロー挿説シテ曰ク余ハ屢外國商人カ自ラ責任ヲ負フヲ好マサル故ニ自分ノ代理人ヲ用ヒ其名ヲ以テ物品ヲ買フコトヲ目撃セリ如何ナル場合ニモ若シ代理人ニ物品ヲ賣渡ストキハ別ニ本人アリト云フヲ知リナカク故ラニ代理人ノミニ信用ヲ置

キタルトキハ更ニ本人ニ對シテ請求スルコトヲ得サルナリト  
原告代行人口ヲ繼キ曰ク原告ハ賣買ノ當時ニ於テ被告ハ取引ノ本人  
ナリトハ毫モ知ラサリシ故ニ後日之ヲ知リタル以上ハ之ニ對シテ代  
價ヲ請求スルコトヲ得サル可ラスト  
被告曰ク事實ハ全ク原告ノ言フ所ニ反對セリ被告ハ賣買ノ當時ニ其  
場ニ臨ミ而シテ原告ニ對シ自分ノ望ム所ノ物品ヲ指示シ見本ヲ擇ミ  
タリ故ニ原告ハ被告コソ眞ニ買主タルコトヲ充分知りタル者ナリト  
ス唯被告ヲシテ責任ヲ負ハシメントスル理由ノアルハ詰リ其物品ガ  
被告ノ手ニ落チタル故ニ其代價ヲ拂フヘシト云フニ過キス然レトモ  
此理由ノミヲ以テ責任アリトセハ遠方ノ植民地ニ在ル商人カ倫敦ノ  
代理人ニ托シ物品ヲ買入レタルトキハ其品物ヲ落手シタルモノ即チ  
植民地ニ在ルモノニ責任アリトセサルヲ得サルニ至ラン本件ノ場合

ニ於テ被告ハ遠方ノ植民地ニ在ルモノト同シ地位ニ在ルモノナリ尤モ人アリ自分ノ爲ニ品物ヲ買ハシメント欲シ他人ヲ代理人トシテ用ヒタルトキハ設令賣買ノ時ニ於テ賣主ハ本人ニ信用ヲ置サルモ其後ニ至リ買主ハ單ニ代理人ニシテ外ニ在ル本人ノ爲ニ買ヒタリト云フコトヲ發見シタルトキハ其本人ニ責任アルコトアリ然ルニ本件ノ場合ニ於テ甲會社ハ被告ノ代理人ニアラス被告ハ固ヨリ直接ニ取引ヲナシタルニアラサルナリ其實際ノ關係如何ト云フトキハ被告ト甲會社トハ互ニ賣買ノ場合ニ與カリタル者ニシテ其意思ヲ探究スレハ原告ハ被告ニ信用ヲ置カスシテ甲會社ニ對シテノミ責任ヲ負ハシムルヲ期セリ故ニ別ニ被告タル他ノ一人ハ取引ニ關係セサルモノト見做シタルコトヲ示セルナリ加之物品ヲ請取リタルカ爲メニ責任アリトセハ非常ノ混雜ヲ生シ實際行ハル可ラス例ヘハ一人ノ賣買周旋人ア

リテ幾人モアル本人ノ爲ニ品物ヲ買込ミ之ヲ各本人ニ送ルトセシ  
此場合ニ該周施人ト本人ハ常ニ貸借ノ取引ヲナシ居ル者ナルトキハ  
物品ヲ送ルハ其負債ヲ償却スルニ過キサルヲモアリテ之ヲ以テ物品  
買入トハ見做ス可ラサルヘシ故ニ各本人ハ幾許ヲ負擔スヘキヤヲ明  
瞭ニス可ラサルコトアラシ又受負大工アリ他人ヲ雇ヒ入レ又ハ他ヨ  
リ材料ヲ買入タリトセシニ其時受負大工ノ爲ニ働キタル者及ヒ材料  
ヲ賣渡シタル者ハ家主ニ對シテ直接ニ賃錢及ヒ代金ヲ請求スルヲ得  
スサレハ到底原告ハ甲會社ト取引シタル時ニ甲ヲ目的トスヘキヤ被  
告ヲ目的トスヘキヤヲ擇ヒタル者ナリ其證據ハ甲會社ニ對シ明細表  
ヲ送リ又甲會社ハ被告ニ對シテ貸シ分トナシタルヲ以テ知ルヘキナ  
リ又賣買周施人ノ場合ニ於テモ賣買ノ當時ニ本人ノ誰タルコトヲ知  
ル能ハスシテ後ニ至リテ之ヲ知リタルトキハ其本人ニ對シテ請求ス

ルヲ得ルモ始メヨリ本人ノ誰タルヲ知リナカテ尙ホ代理人ヲ信  
 用シタルトキハ後ニ至リテ本人ニ對シテ請求スルヲ得サルモノトス  
 原告代言人曰ク取引ノ當時ニハ他ニ一人アリシニ相違ナケントモ其  
 者カ果シテ物品買入ノ本人ナリト云フコトハ原告ニ於テ知り居リタ  
 ルニアラス實ニ其人ノ姓名タモ知ラザリシナリ故ニ物品ノ明細表ノ  
 名宛チ甲會社トナシタリトモ之ヲ以テ被告ニ對スルノ權利ヲ放棄シ  
 タルノ證據トナスニ足ラサルナリ故ニ被告等ノ議論ハ少シモ其力ナ  
 シ何トナレハ原告ハ敢テ甲會社ノミチ信用シテ被告ヲ棄テタルニ非  
 サルチ以テナリ即チ賣買周施人ニ托シテ品物ヲ買ヒ入ル、者アリテ  
 後チ本人ノ誰タルコトヲ發見シタルトキハ賣主ハ本人ニ係リ其代價  
 チ要求スルコトヲ得ヘシ故ニ若シ被告ハ自分ニ責任ヲ負フコトヲ免  
 レント欲シハ賣渡人ニ通知シテ甲會社ノミチ信用スヘキコトヲ云ハ

サル可ラス然ルヲ被告ハ此通知ヲ爲サス後日ニ至リ其責任ヲ免レン  
 トスルハ不理ナリトス又混雜ノ恐レアリト述レトモ此場合ニ於テハ  
 本人ハ一人ニシテ盡ク其物品ヲ落手シタルモノナレハ更ニ混雜ス可  
 キ筈ナシト  
 判事長エレンボーロー曰ク當法廷ノ所見ニ於テ若シ原告ハ被告ノ爲  
 メニ且被告ノ損益ニテ品物ヲ賣渡シタル者ニテ原告ハ甲會社ト賣買  
 ノ當時ニ既ニ其事實ヲ知り居リタルコト明白ナルトキハ法律ノ問題  
 トシテ爰ニ疑ヒナシ即チ此訴件ニ於テ被告ニ義務ヲ負ハシム可キニ  
 アラス然ルニ事實ニ據レハ被告ハ甲會社ノ店ニ在リテ原告ノ持來リ  
 タル見本ヲ閱シ品物ヲ擇リ分ケ取引ニ與リ其後品物ノ注文ハ甲會社  
 ノ名義ヲ以テシ其代價ハ甲會社ヲ信用シテ信用賣チナシ物品ノ明細  
 表モ亦甲會社ニ對シテ送りタルナリ此事實ニ對シテ法律ノ問題トナ

ルハ以上ノ取引ヲナスニ當リ被告カ果シテ眞ノ買主ナリシヤ否ヤト  
 云フニ在リ從來ノ判決例ニ據ルニ未知ノ本人ヲ後日ニ至リ發見シタ  
 ルトキハ其代理人ノ結ヒタル契約ニ付責任アリト定レリ併シ此原則  
 ニモ制限ヲ加ヘテ見サル可ラサルナリ則チ若シ對手カ始メヨリ本人  
 タル人ヲ知リナカラ故ラニ代理人ヲ信シテ之レヲ義務者トナシタル  
 時ハ再ヒ本人ニ對シテ請求スルコト能ハサルナリ余カ始メ此訴件ヲ  
 審理シタルトキハ被告ハ買主ニシテ甲會社ハ其代理人ナルコトヲ原  
 告ハ知リタル者ト審定シタル故ニ被告ノ勝訴ト爲シタルナリ  
 然リ而シテ復タ能ク事狀ヲ考フレハ證據ニモ疑ヒアリテ原告ハ果シ  
 テ始メヨリ充分ニ情ヲ知リタルヤ否ヤ明瞭ナラサル所アレハ再審ヲ  
 許ス可シト判事ベール曰ク外國ニ在ル本人ヲ保護スル爲ニ商人間  
 ニ特別ノ習慣アルヤモ知ル可ラス換言スレハ自國ニ在ル本人ナレハ

責任アレトモ其本人カ外國人ナルヲ以テ責任ナシトノ習慣有ルヤモ測ラレサレハ此點ハ陪審官ノ判定ニ委ス可キナリ又余ハ以爲ク一般ニ賣主ハ何時ニテモ買主タル本人ヲ見出ストキハ本人ニ係リ請求スルコトヲ得ルト雖トモ賣主カ取引ノ始メニ此權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニアラスト故ニ余モ他ノ判事ト同意スルトコロハ若シ賣主ハ賣買ノ當時本人アルコトヲ知リナカラ故ラニ任意ヲ以テ其代理人ノミヲ信用シタルモノナランニハ本人ニ係ル權利ヲ拋棄シタル者ナリトス而シテ此訴件ニ於テ果シテ原告ハ此權利ヲ拋棄シタルヤ否ヲ吟味スルヲ許スヘシト云フニ在リ

其他ノ判事モ各其說ヲ述ヘタレトモ結局皆事實ノ問題ニシテ陪審官ヲシテ再ヒ事實ヲ判定セシムヘシトナセリ

本訴件ノ規則ヲ略言スレハ品物ノ賣主ハ賣買ノ當時ニ於テ買主ガ

自分ノ名義ニテ取引スルモ其實ハ他人ノ代理人ナリト知りナカラ  
 故ラニ表向キノ買手乃代理人ニ信用ヲ置キテ之ヲ賣渡シタルトキ  
 ハ始メヨリ知レタル本人ニ對シテ其品物ノ代價ヲ請求スルヲ得ス  
 乍併賣買ノ當時ニハ賣主ノ外ニ本人アルコトヲ知ラスシテ後日ニ  
 至リ其本人ヲ發見シタルトキハ本人及ヒ代理人ノ何レニ係リテモ  
 請求スルコトヲ得可シ但シ商人社會ノ慣習ニヨリテ在外國ノ本人  
 ヨリ委託ヲ受ケタル代理人ト取引シタルトキニ於テ代理人ノミニ  
 信用ヲ置キタランニハ本人ニ責任ヲ負ハシメストナス如キコトア  
 レハ此限ニアラス

[第拾四] アデソン對カランダセキ (2 Sm. L. C. 277)

Addison v. Gandasequi

(事實)

被告 ガイスバニヤノ商人ニシテ其本國マドリットニテ一ノ

アデソン  
 對カランダ  
 セキ

事實

外國貿易會社ノ支配人ナリ英國倫敦ニ於テ甲會社ヲ頼ミテ原告ヨリ  
品物ノ買入ヲナシタリ元來原告ハ甲會社ノ年來ノ取引先キナリ諸原  
告ノ品物ヲ賣渡スヤ其初メ品物ノ見本ヲ持シテ甲會社ニ至リ爰ニ被  
告ト出合ヒタリ被告ハ原告ノ持來リタル色々ノ見本ヲ吟味シ又其代  
價ヲ定メ且其品物ノ向ケ口杯ヲ原告ニ談話セリ又被告ハ其品物ヲ自  
分ノ居所ニ一週間モ留メ置キ之ヲ吟味セリ其間ニ原告ノ丁稚モ屢被  
告ノ許ニ往來シ他品ノ見本ヲモ示シタリ斯クシテ後原告ハ甲會社ヨ  
リ注文狀ヲ請取リタレハ之ニ應シテ品物ヲ賣込ミタリ蓋シ原告及ヒ  
其書記ハ被告ト出合ヒテ屢面談セリ其後又新タニ注文ヲ加ヘ其注文  
狀ハ例ニ依リ甲會社ノ名義ナレトモ其品物ヲ擇ム等ハ常ニ被告之ヲ  
爲シタリ又物品ノ荷造リヲナスニ當リ甲會社ハ原告ニ告グルニ被告  
ノ指圖ヲ受ク可キ旨ヲ以テセリ此ノ如クナレハ原告ノ帳簿面ニテハ

甲會社ニ對スル貸トナシ又甲會社ノ帳簿ニテハ代價及ヒ手数料トテ  
被告ニ對スル貸トナシ原告ニ對スル借トナセリ其後復タ甲會社ヨリ  
原告ニ掛ケ合ヒテ今少シ品物ヲ賣渡サンコトヲ申込シカ原告ハ甲會  
社ニ對シテハ余リニ既ニ貸シ高超加セリトテ之ヲ拒絕シタリ又其荷  
物ヲ被告ノ本國ニ運輸スルヤ甲會社ハ自分ノ名義ニテ貸船條約ヲナ  
シ且船長ニ命スルニ被告ヨリ甲會社ニ拂フヘキ金額ヲ渡スマテハ此  
荷物ノ引渡ヲ爲ス可ラサル旨ヲ以テセリ因リテ船長ハ其命ニ從ヒ取  
計ヒテナシタリ又甲會社員ノ一人ハ證人トシテ裁判所ニ於テ陳述ス  
ル様ニハ此賣買ノ時ニ會社カ原告ヨリ品物ヲ買ヒタルハ自分ノ信用  
ニテ買ヒ込ミタル者ニテ常ニ會社カ自己使用ノ品物ヲ買込ムトキハ  
同一ノ手續ニヨレルナリ又荷物ヲ運輸スルニ當リ海上保險ヲナスコ  
モ甲會社ノ名義ヲ以テ取計ヒ之ニ付テモ若干ノ手数料ヲ得タリ云々

始審ノ判決

而シテ原告曰ク勿論原告ハ甲會社ニ信用ヲ置キタルニ相違ナキモ其品物ハ被告ノ手ニ在ルモノナレハ被告ハ其代價ヲ拂ハサル可ラス且ツ代理人ヲ信用シテ取引セタル時ト雖モ本人アレハ其責ヲ負ハシムルハ委託賣買ノ普通ノ場合ナリト

(始審ノ判決)

判事長マンズフィールド曰ク果シテ此場合ニ於テ甲

會社カ委託賣買人トシテ取引シタルヤ否ヤヲ審ニスルハ本訴ノ要點ナリトス故ニ陪審官ハ宜シク之ヲ審定ス可シト又注意ヲ加エテ曰ク被告ハ自カラ品物ノ見本ヲ吟味シ取引ノ時ニ臨席シタル者ニテ原告ハ被告カ其買主ナルコトヲ知りタル者トスレハ通例ノ場合ヨリ考ヘナハ多分ハ被告ニ對シテ信用ヲ置キタル筈ノ處ナレハ此レ亦考フ可キコトナリト然ルニ陪審官ハ甲會社ハ本人トシテ取引シタル者ナリト判定セタルヲ以テ遂ニ被告ノ勝訴トナシタリ

再審ノ許  
可ニ對ス  
ル抗辯

於是再審ノ訴ヲ起シタリ即チ再審許可ニ對スル抗辯并ニ原告ノ主張  
スル論旨ハ如左

(再審ノ許可ニ對スル抗辯)

曰ク證據ノ全結果ヲ總括スルトキハ甲

會社ハ取引ノ時ハ被告ノ代理人ニアラスシテ實ニ其本人ナリ而シテ  
賣主ハ此本人ニ對シテ信用ヲ置キタル者トス何トナレハ此ノ如クセ  
サレハ被告ハ其品物ヲ自分ノ手コ入ル、コト能ハサル可シ即チ被告  
ハ外國人ニシテ倫敦ノ市場ニテハ名ノ知レサルモノナレハ巨大ノ金  
額ニ付キ信用ヲ置カサル可シ畢竟甲會社ニ對シテコソ信用ヲ置キタ  
ルナラン又最後ニ今少シ品物ヲ送り吳レヨト申込ミシトキ其申込ミ  
ニ應セサルハ則チ甲會社ニ對シテハ既ニ充分ノ信用貸チナシタレハ  
此上重テ貸ス能ハスト云ヒシ者ニテ被告ニ對シテ其信用盡キタリ  
ト云フニアラサルナリ是ニ依テ見ルトキハ原告ハ始メヨリ甲會社ニ

對シテ信用ヲ置キタルナリ  
原告曰ク此場合ニ甲會社ハ全ク被告ノ代理人ナリ何トナレハ甲會社  
ハ被告ヨリ手數料ヲ請取り其代理ヲナスヲ見テモ知ルヘキナリ故ニ  
原告ハ甲會社并ニ被告ニ對シテ權利ヲ有スルモノナリ即チ注文狀ノ  
表ニ據レハ甲會社ニ對シテ權利ヲ有シ又一方ヨリ云ヘハ其品物ヲ得  
タルハ被告ニシテ其品物ヲ握リタルハ暗黙ニ其代價ヲ仕拂ハンコト  
ヲ約シタルモノナレハ之ニ對シテモ尙ホ權利ヲ有スルモノナリ蓋シ  
英法ニテハ品物ヲ受取りタルトキハ暗黙ノ約束アリトシテ責任ヲ負  
ハシムルハ一般ノ原則ナリ故ニ原告ハ何レニ係リテモ要求ノ權アル  
モノナリ又賣買委託人カ未知ノ本人ノ爲ニ取引ヲナシタルトキハ後  
ニ本人ノ在ルコトヲ得又表在組合員ニ信用ヲ置キタルトキモ後ニ匿  
在組合員出ルトキハ是レ亦責任ヲ免ル可カラサルト同一ノ理由ニ據

ルヘキナリ

(判決) 於是判事長マンズフルトハ始審ニ於テ被告ノ勝訴トナシタル理由ヲ述ヘ且曰ク若シ原告ハ被告ニ對シテ賣込ミタル者ニテ甲會社ハ保證人ニ過キストノ意思ナリシナランニハ帳簿ニハ宜シク被告ニ對シテ貸シタルモノト記入セサル可ラス又原告代理人ハ此場合ハ金額巨大ナルヲ以テ其金額ハ何レニ行キシヤ分ラストハ甚タ疑フヘシ若シ一旦甲會社ノ手ニ落チテ原告ノ手ニ行カサルトキハ原告ハ非常ノ損害ヲ被ラサル可ラスト云ヘトモ如此キ理由ハ少シモ取ルニ足ラス設令大金カ紛失シタリトナスモ法律ハ取引ヲナシタル後ノ行爲ニヨリテ變動スルモノニアラス故ニ甲會社カ破産シタルトキハ成ル程原告ノ迷惑トナルニハ違ヒナケレトモ始メヨリ原告ハ甲會社ニ獨リ義務ヲ負ハシメタルモノナレハ余儀ナク甲會社ノミニ係リ請求ス可

要旨

リキモノナレハ再審ヲ許ス可カラズ  
 要旨 甲商人ヨリ丙ノ使用ニ供スル爲メニ乙ヨリ物品ヲ購入スル  
 ニ當リ丙自ラ其取引ノ場ニ臨ミテ見本ヲ撰擇取捨セリ左レト代價  
 其他ノ約件ハ甲乙ノ間ニ契約セリ而シテ乙ハ其代價ヲ甲ニ對スル  
 貸ト爲シ且ツ之ニ物品明細帳ヲ送レリ又甲ハ代價ヲ乙ニ對スル借  
 入トナシ丙ニ對シテ代價及ヒ手數料ヲ貸ト爲セリ此事實ニ基キテ乙  
 ハ丙ニ對シ物品ノ代價ヲ訴求スルノ權ナシ

〔第十五〕 二重拂ヒノ金錢取戻ノ件

Marriott V. Hampou

(2 Sm. L. C. 325)

事實

二重拂ヒ  
 ノ金錢取  
 戻ノ件

（事實）被告ハ豫テ原告ニ對シ品物ノ代價請求ノ訴ヲ起シタリ然ルニ  
 其以前ニ原告ハ既ニ其代價ヲ拂ヒテ其領收證ヲモ受取りタルカ其訴

訟ノ時ニハ既ニ其領收證ヲ紛失シ別ニ代價仕拂濟ノ證據トナス可キ  
 者ナク止ムヲ得スシテ二重拂ヒヲ爲シタリ然ルニ其後ニ至ツテ紛失  
 シタル領收證ヲ發見シタリ故ニ本訴ヲ起シテ二重拂ノ金錢取戻シヲ  
 請求セリ

始審ノ裁判ニ於テロード、ケンヨンハ此事件ヲ審理シ裁決シテ曰ク二  
 重拂ノ金錢ハ裁判上ノ手續ニ依テ拂ヒタルモノナレハ再ヒ之ヲ拂ヒ  
 戻サシムル事ヲ得ス假令被告ニ於テハ其金ヲ所持スル事ハ己レノ良  
 心ニ違フニモセヨ既ニ裁判上ノ手續ヲ經テ得タル者ナレハ法律上ニ  
 テ之ヲ拂ヒ戻スノ義務ナク原告ハ之ヲ請求スルノ權利ナキナリト  
 是ニ於テ再審ノ訴ヲ提起シタルカ  
 ロード、ケンヨンハ再審ノ裁決ヲナシテ曰ク此訴訟ニ於テ若シ果シテ  
 原告ノ請求ヲ許可シタランニハ到底訴訟ノ停止スル所ヲ知ラサルナ

リ故ニ苟モ裁判上ノ手續ヲ經テ金錢ヲ得タルトキハ之レニテ裁判ハ  
終結セリト見サ、ル可ラス若シ然ラサルトキハ到底人々ヲシテ安堵ノ  
思ヒアラシムルヲ得ス世間ニハ往々一旦裁判ヲ經テ其后新タニ證據  
ヲ得タリトテ再審ヲ乞フ者アルモ其請求ヲ許シタルコトナシ故ニ本  
件ニ於テモ再審ヲ許サスト  
判事グロース曰ク若シ訴訟人ナシテ同一ノ事件ニ就テ再ヒ同様ノ訴  
訟ヲ起スナ許シタランニハ非常ニ世人ノ輕卒倦怠ヲ獎勵スルノ傾向  
ヲ生スヘシ何トナレハ概シテ訴訟ヲ起スノ始メニ其證據ニ關シテ充  
分ノ取調ニ注意ヲ爲ス者ナカル可ケレバナリ此理由ナルヲ以テ同一  
ノ事件ニ就キ再ヒ訴訟ヲ爲スコトヲ許サストノ原則ニハ一點ノ疑フ  
可キ處ナシトス故ニ原告ハ一ノ判決例モ一セス對マックファーランニ基  
キ之ヲ先例トシ之ヲ理由トシテ本訴ノ請求ヲ爲シタリト雖モ該判決

例ノ事實ハ本作ノ事實ト異ナルノミナラス其判決ハ法律ノ原則ニ背ケル者ナレハ以テ先例トナスヘキ者ニアラスト  
 判事ローレンス曰ク若シ原告ノ引用シタル判決ニシテ法律ト見做ス可キ者ナランコハ其結果ハ終ニ前訴訟ノ際ニ於テ提出ス可キ證據ニシテ過テ之ヲ脱却シタルトキニハ再ヒ訴訟ヲ起シテ新證據ニ依リ以テ前裁判ヲ覆スコトヲ得ルニ至ラン如斯ナランニハ何時カ訴訟ノ停止スルヲ得ン故ニ此訴訟ノ請求ハ不當ナリトス

(附論) 此訴訟ノ判決ハ公共ノ政畧ニ基キタル者ニシテ訴訟ヲ終局スルハ社會ノ利益ナリトノ原則ニ基キタル者ナリ凡テ各人間ノ取引ノ際ニ於テ各自ノ爲ニ充分ニ注意スルノ機會アリテ爲シタル行爲或ハ法庭ノ嚴格ナル判決ヲ經テ爲シタル事件ヲ再ヒ改メテ行ハシムルカ又ハ裁判所ニ於テ一旦審問ヲ始メタル事件ヲ中絶セシメテ後ニ再ヒ

起訴スルヲ得ハ徒ニ訴訟ヲ増シ或ハ入費ヲ嵩ミ混雜ヲ來スノ外利益  
ナキナリ故ニ公共ノ政畧ニ基キテ同一ノ事件ニ就テハ再ヒ起訴スル  
ヲ許サハナリ  
判事バテソン氏曰ク一般ニ法律ノ強制ニ從ヒテ拂ヒタル金銭ハ領收  
セル金銭拂戻訴訟ノ手續ヲ以テ拂ヒ戻サシムルヲ得ス  
又善意ニシテ且充分事實ヲ承知シタル後拂ヒタル金銭ハ設令實際ニ  
ハ負フ所ノ義務ナキトモ再ヒ其拂戻ヲ請求スルコトヲ得スト右ノ二  
則ノ第一ハ本文ノ訴件ト同一ノ法理ヲ述ヘタルモノナリ  
ブラオン對マツキナリ—(Brown V. M. Kinally, 1 Esp. 279)ノ訴件ニ於テ原告  
ハ被告ノ有スル鐵ヲ買ハシコトヲ約シタリ而シテ其鐵中ノ一種A印  
ノ鐵ハ惡品ナレハ之ヲ除キ其他ハ悉皆一頓ニ付キ價九「パウンド」ノ割  
ニテ賣却センコトヲ約シ被告ハ其鐵ノ引渡ヲナシタリ然ルニ取除カ

ント約シタルA印ノ鐵ヲ入レ置キテ約束通リノ割合ニテ代價ヲ請求  
 シテ起訴セリ是ニ於テ原告ハ姑ク賣主ノ意ニ任セ一頓九「パウソド」ニ  
 當レル代價ヲ拂込ミタリ但シ特更ニ注意シテ曰ク代價ハ正ニ拂フ可  
 シ然レトモ今姑ク請求通リニ代價ヲ拂ヒ渡ストモ爲メニ正當ニ有ス  
 ル權利ヲ失フコトナカルヘシト其意味ハ代價ノ過分ナルヲ發見スル  
 トキハ再ヒ其拂戻シテ請求スヘシト云フニ在リシ其後ニ至リA印ノ  
 鐵ヲ混入シテアリシコトヲ証明シテ本訴訟ヲ提起シタルナリ然ルニ  
 ロ「ド、ケンヨ」曰此訴訟ハ起スコトヲ得ス若シ原告ノ請求ヲ許サハ  
 一訴訟事件ヲシテ再ヒ吟味セシムル事トナルナリ何トナレハ本訴ニ  
 於テ原告ヲシテ其申立ヲ貫カシムヘキ理由ハ正シク前訴訟ノ被告ヲ  
 シテ其原告ニ對シ充分ナル抗辯ノ理由トナリシヲ以テナリ然レトモ  
 若シ錯誤ノ爲メニ拂込タル金錢ナレハ再ヒ之ヲ回復スルコトヲ得ヘ

判決録/植村俊平

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

95 ページ以降の講義録 (37 号以降) は非所蔵